



聖徒の道

10
1998

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道



表紙

わたしたちには教会の機関誌を含め驚くほど多くの援助手段があり、それらは「わたしたちがその価値観を守り、主の前に従順に歩むための助けとな」っている。本誌「全世界のための機関誌」32ページ参照。(写真/クレイグ・ダイヤモンド、ジェリー・ガーンズ)

こどものページ

太平洋上に浮かぶ島、キリバスに住むアリエターナ(10才)は、初等協会に出席したり、学校や釣りに行ったり、伝統的な踊りに参加したりするのが大好きです。こどものページ「キリバスに住むアリエターナ」14ページを見ましょう。(写真/ジョイス・フィンドレー)

一般

- 2 大管長会メッセージ— 霊を養い、魂に養いを与える
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 12 家族 十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 24 家族— 世界への宣言 大管長会ならびに十二使徒評議会
- 25 家庭訪問メッセージ— 日の栄えの結婚
- 26 「あなたは盗んではならない」 リチャード・D・ドレイパー
- 32 全世界のための機関誌 マービン・K・ガードナー
- 38 東ヨーロッパにおける福音の確立
七十人 デニス・B・ノイエンシュバンダー

青少年

- 8 サージャ・ストラチョバ
マービン・K・ガードナー
- 36 黄金の質問 パット・メイヤーズ

こどものページ、14ページ参照

こどものページ

- 2 小さなお友だちへ— スーザン・L・ワーナーしまい
- 4 歌— うるわしき救い主
- 6 分かち合いの時間— わたしも今すぐ、せんきょうしになれる
シドニー・レイノルズ
- 8 なぞのボール アルマ・イエーツ作
- 13 おもちゃばこ— ゲーム『旧約聖書』のものがたり
ビビアン・ポールセン、コーリス・クレートン作
- 14 友だちになろう— キリバスに住むアリエターナ ジョイス・フィンドレー

12ページ参照



38ページ参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。

月刊—イタリア語、英語、オランダ語、韓国語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語。隔月刊—インドネシア語、タイ語。季刊—アイスランド語、ウクライナ語、ギルバート語、セブアノ語、タガログ語、チェコ語、ハンガリー語、フィジー語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴースリンド

顧問：ジェイ・E・ジェンセン、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイドン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド

工程管理：ベス・デーリー

出版補佐：コニー・シェークスピア

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー主任：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニー

ズ・カービー、ジェーン・L・マンフォード、

タッド・R・ピーターソン

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグズ

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、『聖徒の道』予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部 配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines October.

1998. Japanese. 98990 300

October 1998 no. 10. SEITO NO MICHI (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. U.S.A. subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$14.00. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both old and new address are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

聖徒の道/1998年10月号

「家族——世界への宣言」

1996年の夏、わたしたち家族は、ロシアのフォークダンスグループに所属する演奏家二人のホームステイを引き受けました。そのころわたしは、夫のために『リアホナ』(ロシア語版)を予約購読していたのですが、ある朝、この訪問客の一人が、1996年6月号を読み始めました。彼は眼鏡を取り出し、その中のある記事をじっくりと読んでいました。やがて、もう一人の人にもその記事を紹介しました。後で分かったのですが、彼らがとても興味深く読んでいたのは、大管長会と十二使徒定員会が発表した「家族——世界への宣言」だったのです。

その週末、彼らが帰る準備をしていると、一つだけお土産に持って帰りたいものがあると言いました。それは、家族の宣言が載っている教会の機関誌だったのです。わたしたちは、ともに過ごしたすばらしい経験も持ち帰ってほしいと願いつつ、喜んで差し上げました。

ユタ州、バウンティフル・ハイツイステーク
バウンティフル第41ワード
ビクトリア・モーリス

注—「家族——世界への宣言」は、本誌24ページに掲載されています。

会員宣教師としての助け

わたしは、『聖徒の道』を読むのが大好きです。内容の良さもさることながら、毎号がわたしにとって助けになっています。よく、『聖徒の道』から何ページかコピーして、友達や求道者に紹介しています。

盛岡地方部、北上支部
及川カツ子



現代の預言者の模範

『リアホナ』(スペイン語版)は、わたしと家族にとって祝福となっています。それぞれの記事、とりわけ大管長会メッセージは、わたしの信仰を強めてくれます。いにしへの預言者たちが主について教え、証したのと同様、主について証をし、主の教えをわたしたちに分かち合うために、主御自身が預言者を召されたのだ、という証を得るうえでも『リアホナ』は役立っています。彼らの模範によってわたしは、もっと主の教えに添って生活したいと思うようになりました。多くの末日聖徒の青少年のように、わたしも今、専任教師として伝道に出る準備をしています。

ペルー・ヒュアヌコ・アマリスステーク、
ロス・ハルディネスワード

レイ・スパンサー・サンティアゴ・ラストラ

心に響くメッセージ

『リアホナ』(スペイン語版)に掲載されるメッセージは、わたしの心に響きます。大好きな読み物は、青少年の記事と「読者の便り」です。発行に携わっている方々の働きに感謝しています。これからも頑張ってください。

コロンビア・カータジエナ・エル・ボスク
地方部、エル・ソコーロ支部
ダイヨ・コゴヨ・デ・アビラ



霊を養い、 魂に養いを与える

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

いにしへのアモスは、次のように預言しました。「主なる神は言われる、『見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくのもない、主の言葉を聞くことのききんである。』」

彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。」(アモス8:11-12)

地には飢えがあります。そしてほんとうの渴き、すなわち主の言葉へのひどい飢えと、御霊にかかわる事柄への満たされない渴きがあります。現在、世の人々は霊的な食物に飢えているように思われます。魂に養いを与えるのは、わたしたちに与えられた義務であり、機会でもあります。

聖霊の導きを求める

1世紀以上前のこと、ブリガム・ヤング大管長はある祈りの中で「神権者と、教会と王国で権能を有するすべての人への」祝福をこう請い求めました。「彼らが、聖なる御霊を注がれて、すべての義務を果たすのにふさわしい者とされますように。」



わたしはためらうことなく、
お約束します。
主から出ている
教義と聖約第121章の
精神をもって
皆さんが自分の家族を
治めるならば、
喜びを得られるでしょう。
皆さんが責任を託されている
人々も同様です。

これは、タバナクルで行われた教会の最初の大会で、ヤング大管長が説教壇に立って開会の祈りをささげたときの言葉です。

それは1867年10月6日のことでした。主へのヤング大管長の嘆願は、その祈りがささげられた当時と同様、130年以上たった今日でも時宜を得たものです。

管理上の多くの責任を果たすには、聖なる御霊が必要です。クラスで福音を教えるとき、また世の人々を教えるとき、聖なる御霊が必要です。家族を治め、教えるときも、聖なる御霊が必要です。

もしもわたしたちが御霊の影響を受けながら指導し教えることができれば、託された人々の生活に霊性をもたらすことができるのではないのでしょうか。

世界的な規模の教会

教会の著しい成長に伴い、わたしたちは主の王国の諸事がきわめて重要な意味を持っているとの感をますます強くしています。わたしたちには家族を教えるための広範囲なプログラムがあります。また、子供たちや青少年、母親や父親のための組織があります。大規模な宣教師制度があり、際立った福祉活動があり、また恐らくは世界でも最大規模の家族歴史プログラムがあります。わたしたちは数百数千の礼拝の家を建てなければなりません。学校やセミナー、インスティテュートを運営しなければなりません。わたしたちの活動の結実は世界に広く及んでいます。このすべてが教会の事業です。しかし、教会は靈感に基づく単なる事業組織ではありません。社会の単なる一団体にとどまりません。これらを手段として達成する一つの真実の目的があるのです。

その目的とは、天の御父をお助けして、天の御父の業と栄光、すなわち人の不死不滅と永遠の命をもたらすことです（モーセ1：39参照）。

わたしたちが戦いを挑む勢力はきわめて大規模です。それに立ち向かうためには、自分の持てる以上の力を必要とします。

家族の長の方々に、指導者の職にあるすべての方々に、

教会の大勢の教師や宣教師に、わたしはお願いします。皆さんが行うすべてのことにおいて、霊を養い、人に養いを与えてください。「文字は人を殺し、霊は人を生かす」（2コリント3：6）のです。

管理者の方々、多くのステーキや伝道部、地方部、ワード、支部における教会の指導者、すなわち様々な集会を数多く組織して執り行う皆さんに——その中にわたし

自身も含まれますが——わたしはお願いします。絶えず主の靈感と主の聖なる御霊との交わりを求めてください。そして祝福を得て、わたしたちの働きの成果が霊的に高い水準に維持されますように。これらの祈りは必ずかなえられます。啓示によってすでに次のような約束が与えられているからです。「神はその聖なる御霊によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物^{たまもの}によって、……知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。」（教義と聖約121：26）

集会を執り行うことについては、「神の戒めと啓示にあるとおりに、聖霊に導かれるままに集会を執り行わなければならない」と、主は述べて

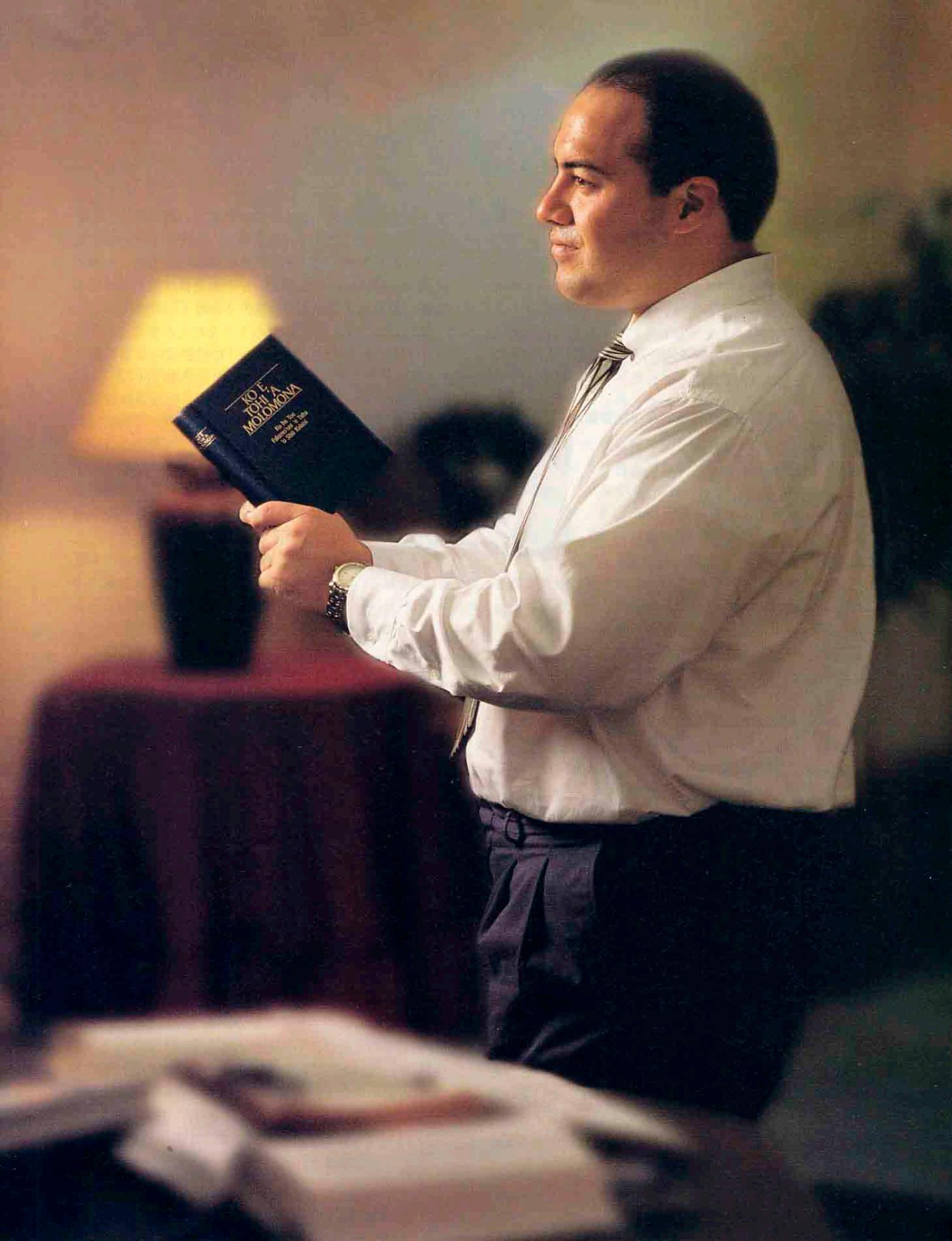
おられます（教義と聖約20：45）。また、こうも述べられています。「聖なる御霊によって指示され導かれるままにすべての集会を執り行うことが、初めから常にわたしの教会の長老たちに指示されてきたし、またこれから先いつまでも指示されるであろう。」（教義と聖約46：2）

その原則に加えて、かつて述べられた一つの言葉に思いをはせてください。教会に加わった改宗者について、モロナイはこう語っています。「人々はバプテスマを認められ、聖霊の力が働いて清められると、キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ……るためである。」（モロナイ6：4）

兄弟姉妹の皆さん、すべての集会を執り行う際に、朽ちることのないパンで神の羊の群れを養うようにしましょう。



家族の長の方々に、指導者の職にあるすべての方々に、教会の大勢の教師や宣教師に、わたしはお願いします。皆さんが行うすべてのことにおいて、霊を養い、人に養いを与えてください。



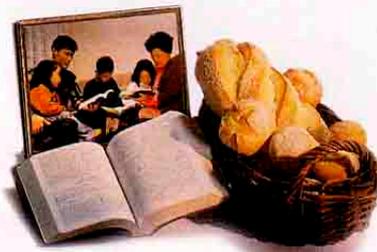
御霊によって教える

両親の皆さんに、また宣教師を含め福音を教える立場にいるすべての方々に、わたしは主御自身が問いかけられた一つの質問をしたいと思います。「それゆえ、主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。すなわち、『何のためにあなたがたは聖任されたのか。』」

次いで、主はそれに答えておられます。「御霊……によって、わたしの福音を宣べ伝えるためである。」

それから主は、御霊によって教えるときに起こるすばらしい出来事について述べておられます。「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」（教義と聖約50：13-14，22）

教える者と教えられる者が互いに理解し合い、ともに教化されて、ともに喜ぶこと、これがわたしたちの働きの目的ではないでしょうか。



教える者と教えられる者が互いに理解し合い、ともに教化されて、ともに喜ぶこと、これがわたしたちの働きの目的ではないでしょうか。

ある従軍牧師の話

わたしはある末日聖徒の従軍牧師の話思い出します。彼は信仰の篤い、献身的で、勇敢な人でした。およそ30年前、戦下の南ベトナムの中央高地に1年以上とどまっていました。その地の戦闘は激しく、ベトナムのほかの地と同様に悲惨で、何人もの死傷者が出ました。彼も2度負傷しました。彼は、自分の属する旅団の多数の兵がひどく負傷し、大勢が命を落とすのを見ました。彼の隊の兵たちは彼を愛し、尊敬していました。上官も彼を大いに尊敬していました。

彼は幼いころからの教会員ではありません。合衆国南部で少年時代を過ごした彼は、信仰深い家庭で育ちました。家族で『聖書』を読み、地元の小さな教会に通っていました。彼は聖典の中で読んだ聖霊の賜物を得たいと思いましたが、それは得られないと教えられました。しかし、彼はその望みを決して失いませんでした。こうして、彼は大人になり、合衆国陸軍で働きました。彼は自分がいちばん欲しているものを探しましたが、まったく見つかりませんでした。従軍期間中、彼は刑務所の看守

になりました。カリフォルニア刑務所の看守塔にいるとき、彼は自分に欠けているものについて深く考え、聖霊を受けられるように、そして心に感じている飢えを満たせるように主に祈りました。その飢えは、彼がそれまでに聴いた説教では完全には満たされなかったのです。

ある日、二人の若者が家のドアをたたきました。すると彼の妻は、夫が家にいるときにまた来るようにと二人に言いました。この二人の若者は、聖なる御霊によってその家族を教えました。彼らは2週間半でバプテスマを受けました。わたしはかつてこの人が証するのを聞いたことがあります。彼は聖なる御霊の力によって教えを受けたときに教化され、自分を教えてくれた二人とともに喜びを得たと言っていました。その驚くべき出来事が始まりとなって、彼には聖霊の賜物とともに光と真理が注がれるようになりました。その光と真理は、死に行く人に平安を、残された人に慰めを、傷ついている人に祝福を、小心な人に勇気を、そして宗教をあざける人に信仰を与えるものです。聖なる御霊

の靈感の下に与えられる教えの実は甘く、霊を養い、魂に養いを与えます。

両親のための聖なる御霊

親として家族の長の立場にいる方々に、わたしは特別な助言を差し上げたいと思います。家庭の霊性を高めるといふ、わたしたちに与えられた難しいながらもすばらしい務めを果たすに当たっては、聖霊の導きが必要です。

ああ、世の中には何と数限りない悲劇が見られることでしょう。その悲劇の根は、争いの絶えない家庭の中で苦々しい思いを栄養として育つのです。

何年も前のある午後、電話がかかってきました。電話の向こうの若者は、わたしに会う必要があるときりに言いました。そこでわたしは、その日はまだ幾つも約束が入っているので、明日にしてもらえないかと尋ねました。しかし彼は、すぐに会いたいと言います。そこでわたしは彼に来るように伝え、秘書にほかの約束を変更す

るように頼みました。それから少しして、彼はやって来ました。追い詰められ、苦悩にさいなまれた様子の若者でした。その髪は長く、みすばらしい風采でした。わたしは彼に、腰を下ろして、率直に話すように言いました。そして彼の問題に関心があり、彼を助けたいと思っていることを伝えました。

彼は悲惨で惨めな、ある出来事について話してくれました。彼は深刻な問題を抱えていました。律法を犯し、道徳的に汚れ、希望のない生活を送っていました。そして窮地に陥った今、自分が恐ろしい状態にあることに気づいたのです。彼は自分自身の力以上の助けを必要とし、それを請い求めたのです。わたしは彼に、父親は彼の苦しみを知っているかどうか尋ねました。父親は自分のことを憎んでいるので、父親には話せないとの返事でした。

わたしはたまたま彼の父親を知っており、また父親は彼を憎んでいないことも知っていました。父親は彼を愛しており、彼のことを嘆き、悲しんでいました。しかしその父親には、怒りを抑えられないという弱点がありました。子供たちをしつけるときに自制心を失い、子供と自分自身の両方を傷つけていたのです。

わたしは机越しに、打ちひしがれた気持ちで体を震わせている、そして父親を敵のように避けているその若者を見詰めながら、預言者ジョセフを通して与えられた啓示の中の偉大な真理の言葉について考えました。その言葉は、もともとは神権の統治の精神について述べたものですが、家庭を治めることにも当てはまると思います。

「偽りのない愛」によって得られる力

「いかなる力も影響力も……維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。」(教義と聖約121:41-42)

このすばらしい簡潔な言葉は、わたしたちが親として身に付けなければならない精神を述べていると思います。これは、しつけは適切ではあっても子供を傷つけやすいので行うべきではないという意味でしょうか。賢明であっても叱責はすべきではないという意味でしょうか。次の言葉に注目してください。

「厳しく責めなさい。」[いつそうするのでしょうか。

腹が立ったときや、怒りを感じたときでしょうか。そうではありません。]「聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。[聖霊は争いの気持ちの中で行う叱責に対して導きを与えてくださるのでしょうか。いいえ。]そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいつそうの愛を示しなさい。

それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。」(教義と聖約121:43-44)

家庭を治める鍵である聖なる御霊

家族の長の立場にいる兄弟姉妹の皆さん、これが、聖なる御霊による導きを頂きながら家庭を治めるための鍵です。わたしは親である方一人一人に、これらの言葉をお勧めします。そして、ためらうことなくお約束します。主から出ているこれらの言葉の精神をもって皆さんが自分の家族を治めるならば、喜びを得られるでしょう。皆さんが責任を託されている人々についても同様です。

靈感に満ちたこれらの言葉は、福音の霊的な活力であり、わたしたちの信仰の本質となっています。神の助けがあって、わたしたちが教会におけるあらゆる活動の中で、また家庭におけるあらゆる交わりの中で、これらを養うことができますように。

1世紀以上も前のヤング大管長の祈りに戻りましょう。わたしたちの永遠のお父様、「神権者と、教会と王国で権能を有するすべての人への」祝福を請い求めます。「彼らが、聖なる御霊を注がれて」、彼らの家庭や召し、職業、近隣における、また彼らのすべての活動や交わりにおける「すべての義務を果たすのにふさわしい者とされますように。」

ホームティーチャーへの提案

1. 世の人々は霊的な食物に対する飢えに苦しんでいる。
2. 自分の家族を治め、教えるとき、また管理上の責任を果たすとき、さらにクラスで福音を教えるとき、また世の人々を教えるとき、わたしたちには聖なる御霊が必要である。
3. わたしたちは、「教化されて、ともに喜ぶ」(教義と聖約50:22)のために、御霊を必要としている。
4. 聖なる御霊の交わりを求めるわたしたちの義にかなった祈りは、必ずかなえられる。

新たな人生を見だし、選び取ったロシアの若い女性、 サーシャ・ストラチョバ



マービン・K・ガードナー

サーシャ・ストラチョバは、13歳のころから、神について知りたいと切に思うようになりました。何か月もの間、サーシャは祈り続けました。「天のお父様、わたしはもっとあなたのことを知りたいと願っています。」

主はこの若い女性の祈りにこたえられました。ある日のこと、ロシアのサンクトペテルブルクにあるサーシャの通う学校のクラスに、二人の宣教師が招かれ、生徒のために話をしてくれました。その話の中で、サーシャはある言葉に驚き、心を釘付けにされました。「人が存在するのは喜びを得るためである。」(2ニーファイ2:25) 何と変わった物の見方でしょう。「でも、わたしは信じたんです」とサーシャは語ります。「この二人の人たちは、どうやったら人生に喜びが得られるのか知っている、と感じたのです。」

サーシャは有頂天になって、急いで帰宅し、自分の見いだした教を母親と分かち合いました。しかし、その当時離婚したばかりで、人生の重荷に押しつぶされそうになっていた母親は、サーシャの話も気持ちも無視しました。教会の支部は自分たちの家からはるか離れた所にありましたが、サーシャは日曜日の集会に出席したいので許可してほしいと嘆願しました。「母はこう言いました。『どうしてそんな遠くの

町まで行かなくちゃならないの。』でもわたしはこう答えました。『お母さん、わたしどうしてもこの教会に行きたいの。』」

次の日曜日、サーシャは一人でバスに乗り、それから地下鉄に乗り換え、支部にたどり着きました。「そこに愛があるのを感じました」とサーシャは語ります。「その支部に集う人々の中に活力がみなぎっているのを感じたのです。わたしもやっと神について知り始めました。自分もこの人たちと同じように感じたいと心から思いました。」

間もなく、サーシャは母親に宣教師をアパートに呼んでもいいかと尋ねました。「母はこう言いました。『だめよ、わたしたちに宣教師なんか要らないわ。』それでも、わたしはこう言いました。『お母さん、毎日床のお掃除をするから、ね、呼んでいいでしょ。』」1か月の間、毎日床を掃除した結果、母親もとうとう納得し、宣教師を招待できるようになりました。二人の宣教師はサーシャの家に足を踏み入れたとき、驚いてしまいました。サーシャのアパートが13歳の子供たちでごった返していたからです。実は、サーシャが自分のクラスの生徒を全員招待していたのです。3か月後、サーシャとサーシャの友人二人がバプテスマを受けました。

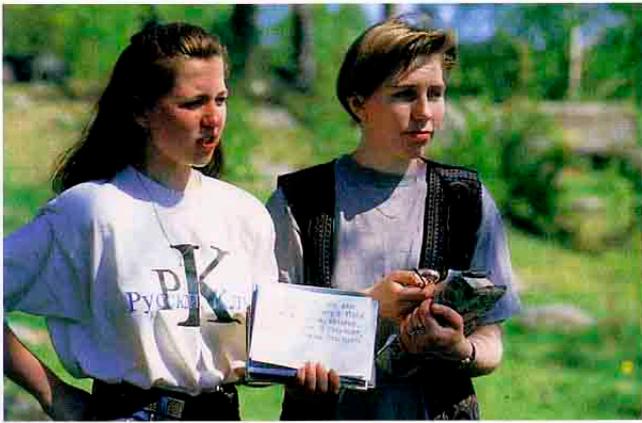
「ああ、神様のことを知りたい人がいたんだわ。」

サーシャは自分の母親にも福音の味をたらず喜びを知ってほしいと思いました。「母のために断食をして祈りました」サーシャはこう語ります。「毎晩母のベッドの上に、こんな内容のメモを置きました。『愛するお母さんへ、神はお母さんのことをほんとうに愛しておられます。どうぞ神に祈ってください。そうすれば必ず神は今日にでも祝福を下さいます。』」サーシャは母親と一緒に家庭の夕飯を食べています。そして今も、母親がいつかはバプテスマを受けてくれるという希望を抱いています。

14歳になったサーシャはある日、プロテスタント教会のちらしを目にしました。神について知りたい人々を集会に招待するちらしでした。サーシャはこう考えました。「ああ、神様のことを知りたい人がいたんだわ。」これこそ真理を熱心に求める人に福音を伝える絶好の機会と思ったサーシャは、そ

サーシャは、文化の香り高いサンクトペテルブルクで、喜びと目的を見いだした。上左—宮殿広場にある凱旋門。上右—復活教会。右ページ—町の至る所を流れる運河、その一つにかかる橋の上で。





ユースカンファレンスのワークショップで教えるサーシャと友人の一人（左）。支部の姉妹たちとその家族を訪問するのが何より楽しかった支部扶助協会会長時代のサーシャ（右）。

の集会に出席しました。それもたった一人です。その教会の礼拝行事の真っ最中に、サーシャは大胆にも人いっぱい部屋の前に進み出て、救い主と福音の回復についての証を述べました。「心の底から自分の語ったことが真実であると知っている、と証しました。そして、皆にわたしたちの教会に来るようにと勧めたのです。」1992年のその日以来、サーシャは何人かの友人を教会へと導いています。

世の誘惑

そんなサーシャもこの世の誘惑に負けそうになったことがあります。サーシャはダンスが大好きで、将来プロのダンサーになるために小さいころから訓練を受けていました。バプテスマを受けて数か月たったころ、サーシャはサンクトペテルブルクにあるプロのモダンダンスグループの一員となりました。そのグループのダンサーのほとんどが成人でした。教会員は一人もいませんでした。教会の標準に従って生活している人は一人もいなかったのです。

サーシャが15歳のときに、そのダンスグループがスイスでの公演旅行に向けて準備を始めました。一生に一度しかないチャンスが到来したのです。「毎日8時間近く練習しました。来るべき公演旅行に備え、全力を傾けて練習しました。」数か月にわたってダンスに専念した結果、サーシャの心は危うい

ことに母親や学業、そして教会からすっかり遠のいてしまいました。

幸いにも、サーシャには末日聖徒の友人アーニヤがついていました。ある日のこと、アーニヤの母親がこう尋ねました。「サーシャ、立ち止まってよく考えてごらん下さい。今の環境の中で清さを保つことができるかしら。あの人たちは知恵の言葉や純潔の律法を守っていないでしょう。そんな人たちと一緒にいて聖霊があなたとともにいてくださるかしら。」

「その言葉にわたしの心は動きました」とサーシャは語ります。「わたしは霊的な暗闇くらやみに取り巻かれている自分にはっと気づいたのです。そうしたら、怖くなってきました。アーニヤとわたしはひざまずいて祈りました。祈り終わったときに、光に包まれているように感じました。そしてダンスグループと縁を切らねばならないことが分かりました。」

でもどうやってそのグループをやめられるというのでしょうか。仲間のダンサーを幻滅させないで済む方法があるのでしょうか。サーシャは神権の祝福を求めました。それからアーニヤを連れて、自分の決心したことを伝えるために、ダンスのディレクターのところに行きました。「ダンスの練習場に着くと、座ってたばこを吸っているディレクターの姿が目に入りました。ディレクターは、リハーサルがあるから、早

く着替えて来るように言いました。」サーシャはそのときのことをこう回想します。「わたしはそのグループでもう踊る意思のないことを伝えました。ディレクターは耳を貸そうとはしませんでした。『よくもまあそんなことを言えたわね』と言われました。『どうしてわたしたちを裏切るの。』ディレクターはわたしをしっかりとつかまえて、ダンス仲間のところへ連れて行きました。わたしはディレクターに話そうとしましたが、自分の無力を感じました。一言も言い返すことができなかつたのです。」

幸いにも、アーニヤがまだサーシャのそばにいてくれました。黙ったままでしたが、心の中でサーシャのために祈ってくれていたのです。「そのとき、突然、わたしは特別な力を頂いて、皆の前で話すことができました」とサーシャは語ります。サーシャは、自分がグループをやめる理由を説明しました。「容易なことではありませんでした。みんな自分の友達だったからです。」

ディレクターは、サーシャが心を变えそうにないのを理解すると、代役のダンサーを呼びました。そして、すべてをそのダンサーに引き継ぐように命じたのです。「わたしは踊り始めました。これがこのダンスを踊る最後だと思い、踊りながら泣いていました。」

サーシャは、ぐったりと疲れて帰宅しました。「でも、わたしは勝ったの

です！ その夜を境にして、わたしは毎晩祈るようになりました。神のために、時には最愛のものを犠牲にしなければならぬこともある、ということをおぼえて理解しました。わたしの新たな人生がそのときから始まったのです。」

サーシャは母親と和解し、高校を卒業し、そしてダンスの才能を用いる別の方法を見つけました。最近のことですが、サンクトペテルブルクにある文芸大学でダンスの学位を取得したのです。いちばん良かったのは、サーシャの心が再び主に向けられるようになったことでした。

「わたしたちは一つの家族と ならなければなりません。」

16歳のとき、サーシャは支部の若い女性会長会の第一副会長に召されました。友達のアーニャが会長でした。この二人以外に支部で活発な若い女性はいませんでした。ある日、指導者がこんなことを話してくれました。「皆さんの支部には若い女性に属する人たちがたくさんいますが、実際に来ているのは二人だけです。神はあなたたちが皆に働きかけるよう召されたのです。」

そこでサーシャとアーニャは、出かけて行ってほかの若い女性に働きかけました。こうして1か月とたたないうちに、およそ15人の若い女性が活発な会員となりました。数か月後、サーシャは支部の若い女性会長に召され、17歳のときには、地方部の若い女性会長会第一副会長になりました。「わたしと同様、家族の中で自分だけが会員という若い女性が大勢います。だからこそ、わたしたちは一つの家族とならなければなりません。わたしたちがお互いにほんとうの意味での友達になるというのがわたしの心からの願いでした。そうやってこそ、みんなで助け合って主の言葉に忠実にいられるでしょう。」

若い女性たちは、^{しんぼく}親睦やいろいろな活動、また奉仕のため、よく顔を合わ

せました。レッスンは交替で行い、支部のセミナークラスに出席し、外に出て行ってはいろいろな活動を一緒に楽しみました。「このときの若い女性は、そのほとんどが今でも活発に教会に集っています」とサーシャは語ります。「力強い証を持ち、それぞれの召しにあって奉仕の業を行っています。今でもみんな、親友です。」

「たやすいこと」

サーシャは18歳のときに、支部の扶助協会会長に召されました。「最初のうちはこう考えました。『わたしには行動力がある。何でも独りでできる。たやすいことよ。』しかしやがて、支部には90名以上の姉妹たちがいて、そのほとんどが自分よりはるかに年上であるという事実を実感しました。わたし独りの力では何もできないことが分かりました。」

サーシャは謙遜^{けんそん}になって、主に助けを尋ね求めました。支部長から、姉妹たちを友情の輪で一つにまとめるよう励ましを受けました。「家庭訪問ほど大切な務めはないと感じました。」

クリスマスの精神

何十年にもわたってロシアではクリスマスを祝うということがありませんでした。しかし何度か祈りをささげた結果、サーシャはクリスマスを救い主の誕生を祝う特別な日として強調することの大切さを感じました。「すべての姉妹たちにクリスマスの精神を感じてほしいと思いました」とサーシャは語ります。ホームメイキングの集会で、姉妹たちは布地から動物のぬいぐるみを作る方法を学びました。そして扶助協会の姉妹たちは、何組かのグループに分かれて、50軒以上になる支部の全会員を訪問し、「メリークリスマス」の言葉とともに、ぬいぐるみをお子たちに配って回りました。

サーシャはいろいろな準備や訪問で多忙を極め、まさか自分を訪問して

れる人がいようとは夢にも思いませんでした。「でも、12月23日のこと、その冬いちばんの寒気に見舞われた日に、ドアのベルが鳴り、扶助協会の姉妹たちが4人連れて我が家を訪問してくれたのです」とサーシャは回想します。「4人のうちの1人は、一年半の間教会をお休みしていた姉妹でした。その日の晩すでに何軒かの家を訪問していた姉妹たちでしたが、わたしの家も訪問することにしたということです。ほんとうに凍えるように寒い日で、皆、体が冷え切っていました。それでも姉妹たちはろうそくに火をつけ、『聖しの夜』をわたしも入れて歌ってくれました。たくさんの温かい言葉をかけてくれて、ホームメイキングと一緒に作ったクリスマスカードも1枚プレゼントしてくれました。その姉妹たちと天の御父からほんとうに大きな愛を感じました。」

後になって、多くの女性たちから、クリスマスの訪問をしたり、受けたりするのがどれほど楽しかったかという喜びの声を聞きました。「自分たちの経験について語る彼女らの心は、数々の思いに満たされていました。光や火のような熱意に満たされていました。わたしもそのような姉妹たちから温かいものを感じました。その冬いちばん寒い時期だったにもかかわらずです！」

今や、20歳になったサーシャは、地方部の扶助協会副会長として働いています。サーシャはこう語っています。「いつも何かを学んでいます。鉄の棒（1ニーファイ11：25参照）から手を放したくないと思います。毎日欠かさず『モルモン書』を読んでいます。『モルモン書』はわたしの生活の支えになっています。この世界でいちばん偉大なものは、天の御父とイエス・キリストの愛です。わたしたちに永遠の幸福を与えることができるのは、この御二方だけです。わたしは、天の御父とイエス・キリストのない人生を想像することなどできません。□

家族

家族は社会と教会の基本的な単位であるばかりでなく、
永遠の命への希望をつなぐ基盤です。

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング長老

預

言者ジョセフ・スミスによってイエス・キリストの福音が回復されて以来、末日聖徒イエス・キリスト教会が宣言を発表したのはわずか4回にすぎませんでした。¹ 教会が150年の歴史を刻んだ年に発表された第4回の宣言において、教会はその間に遂げてきた教会の進歩を世界に宣言しました。それから15年を経た後に第5回に当たる宣言が発表されました。1995年9月23日に発表された最も新しいこの第5回の宣言のテーマは家族です。² この宣言から、わたしたちは天の御父が家族を特に重要視しておられることを理解することができます。

この世で最も大切にすべき事柄、すなわちわたしたちが関心を向けることによって幸福を得ることができ、逆に無関心であれば悲しみをもたらすような重要な事柄について、天の御父ははっきりとした指示をお与えになります。なぜならば天の御父は御自身の子供たちを愛しておられるからです。天の御父はこれらの事柄を靈感によって個人に直接お教えになることが時にはあります。けれども、このような重要な事柄^{しるべ}については、個人の啓示だけでなく、天の御父の僕たちを通じて明らかにされます。いにしへの預言者アモスの言葉はこのように述べています。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス3:7) 天の御父が預言者を通じて語られる

のは、靈感を受け止められない人々も、彼らが耳を傾けさえすれば、真理が語られていること、警告を与えられていることに気づけるようにするためです。

家族に関する宣言の冒頭部分にはこのように記されています。「家族：世界への宣言——末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会ならびに十二使徒評議会」。

この表題にはわたしたちが慎重に考えるべき事柄が3つあります。第1は主題である家族です。第2はこの宣言の対象者、すなわち全世界の人々です。第3は、これを宣言しているのはわたしたちが預言者、聖見者、啓示者として支持している人々であることです。これら3つの要素は、家族はわたしたちにとっての上なく大切なものであること、宣言されている事柄はいずれも世界のあらゆる人にとって有益であること、そして宣言は「わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである」(教義と聖約1:38)と言われた主の約束にかなうものであることを意味しています。

宣言の内容を詳しく検討する前に、宣言の表題はその内容を読むに当たってわたしたちがどのような準備をしなければならぬと告げているかに注目してみましょう。神は家族についてわたしたちの好奇心を満足させるような事柄をお告げになるとは考えられません。神は家族がどのような状態に到達すべきであって、その理由がなぜかをお告げになるはずで。さらに、天の御父と御子イエス・キリストはわたしたちが御二方のようになっ



「前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。」

コンピューター絵画/スコット・ウェルティアー；写真/クレイグ・ダイヤモンド、別途記載を除く。
13ページ：家族の写真/マイケル・マクリー；絵/ロバート・T・バレット

て、家族として永遠に御二方とともに住むよう望んでおられることをわたしたちは知っています。御二方の御心みこころが示されている「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」(モーセ1:39)という簡潔な聖句から、わたしたちはこの前提が真実であることを知っています。

永遠の命はわたしたちの手が届くところにある

永遠の命とは、天の御父のようになって、幸福と喜びが永遠に続く状態の中で家族として生活するという意味です。当然のことながら、天の御父がわたしたちに望んでおられる状態に到達するには、わたしたちの力の及ばない部分があって、そのために助けが必要であることを

わたしたちは知っています。もし、自分の力不足を感じるのであれば、それによって悔い改めようとする気持ちが生じ、主の助けにすぎる心の準備ができます。宣言は全世界に向かって宣べられたものであるという事実、すなわちあらゆる人とあらゆる政府を対象としていることを考えれば、わたしたちは自分の力不足に対して抱く感情に押しつぶされてしまう必要はないことに気づきます。わたしたちがどのような人物であるか、どれほど厳しい環境に置かれているかにかかわりなく、永遠の命という祝福を受けるにふさわしくあるならば、御父がわたしたちに対して求めておられる事柄は、決してわたしたちの力の及ばないような事柄ではありません。かつて一人の少年が不可能とも思える責任に直面したときに語った言葉は真実です。「主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それではなくては、主は何の命令も人の子らに下されない



「聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするものです。」

ことを承知している……。」(1ニーファイ3:7)

自分が何をすべきかを知るために信仰をもって祈る必要があるかもしれません。何をなすべきかを知ったら、次にその知識に従うことを決意して祈らなければなりません。わたしたちは何をなすべきかを知ることができますし、主によってわたしたちのためにその道が備えられていることについて確信を得ることができます。家族に関して宣言が述べている事柄を読むことにより、わたしたちは何をすべきかについて心に訴えてくるものを期待することができます。いえ、それを期待しなければなりません。そのような靈感に従って行動することは成し遂げられるという確信を持つことができます。

宣言はこのような言葉で始まっています。「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。」

ここで、わたしたちは^{おきなご}幼子になったと仮定してみましょう。初めて聞いたこれらの言葉が真実であることを信じています。わたしたちが神の言葉を読み、あるいは聞くときに、このような状態に自分を置いてみることに意味があります。なぜならば、主はこのように言われたからです。「よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない。」(ルカ18:17)

「男女の間の結婚は神によって定められたものである」と聞いた幼子は安心感を覚えることでしょう。それぞれ独立して存在するにもかかわらず、

互いに完全に補い合う父親と母親の愛を切望するのは、そのような望みが永遠に変わらない幸福の形態の一部だからであることを幼子は知るでしょう。また、両親が天の御父の助けを求めて努力しさえするならば、お互いの中にあるギャップを乗り越え、愛し合うことができるよう神が父母を助けてくださることを知って、幼子はさらに安心感を覚えることでしょう。全世界の子供たちが両親と家族に助けが与えられるようお願いする祈りは、神の前に届けられます。

このようにわたしたちが幼子であると考えながら、宣言に記されている次の言葉を読んでみましょう。

「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするものです。」

これらの真理を理解しているわたしたちは、宣言を読むときだけでなく生涯を通じて、幼子のような気持ちを抱くことが容易になります。なぜならば、



写真/ウエルデン・アンダーセン

わたしたちは紛れもなく子供だからです。わたしたちはどれほどすばらしい家族の一員であり、どれほど偉大な両親を持っていることでしょうか。わたしたちは想像を絶するほど長い間、息子、娘として、わたしたちを心に留め愛しておられる両親とともに天の家庭で暮らしていたことを思い浮かべることができます。わたしたちはさらに、前世において性別が存在するゆえに男性または女性として特有の賜物^{たまもの}を持っていたこと、永遠の幸福を得るために結婚して一つとなる機会が必要であることを知っていました。そして、現在地上にいるわたしたちは死後ふるさとに戻って、天の両親とともにすばらしい所で暮らす自分たちの姿を心に描くことができます。そのときはもはや息子、娘であるばかりでなく、夫、妻、父親、母親、祖父、祖母、孫として愛する家族とともに永遠に結ばれるのです。

このような状態を心に描いていれば、次のような思いに支配されることはないはずで、「永遠の命を得られなくてもいいですよ。来世でほかの所へ行ってもけっこう幸せだと思いますよ。だって、いちばん低い王国でもこの地上よりずっとすばらしいって聞いていますからね。」

このような姿勢を改めるには、永遠の命を得るという目標を単に心に描いているだけでなく、思いの中ではっきりと持っていなければなりません。わたしたちが望んでいるのは家族と一緒に永遠の命を得ることです。結果的にたまたま永遠の命が与えられることを望んでいるわけではありません。また、永遠の命に向かって単に歩みを進めているように感じるだけの状態を求めているわけではありません。どのような努力、苦痛、犠牲が求められようとも、永遠の命を目指しているのです。このように、永遠の命に対する思いを、はっきりとした決意ではなく、漠然とした希望としてしまう誘惑に陥ったとき、最近わたしが見た一つの建物について考えてみるとよいと思います。

わたしはマサチューセッツ州のボストンを訪れていました。多少の郷愁に浸りながらわたしは一軒の下宿屋の前に来ました。妻のキャサリンに出会ったとき、わたしはそこに住んでいました。ずいぶん昔のことだったので、建物は荒れ果てているものと思っていました。けれども驚いたことに、新しく塗装が施され、わたしが住んでいたころと変わりませんでした。この主人が下宿人である学生たちにとってもよくしてくれたことを思い出していました。大きな個室にはシャワーと家具、シーツが備え付けられており、しかもメイドさんのサービス付きでした。それに1週間のうち、ふんだんに食べられる朝食を6日間、すばらしい夕食を5日間作ってくれました。このような待遇にもかかわらず下宿代はわずかな金額でした。その上、わたしたちが「ソーパーお母さん」と呼

んだ家主の奥さんはそのおいしくて量のなっぷりとした食事を愛情を込めて作ってくれました。今になって、わたしはソーパー氏にも、ソーパー夫人にも娘さんにもあまりお礼を言っていなかったことに気づきました。週のうち5回も、12人の独身男性のために夕食を用意するのは大変なことだったに違いないのです。

さて、この下宿屋には十分すぎるほどの広い部屋と最高のもてなしがあり、すばらしい下宿仲間がいましたが、わたしたちはそこに長い間住みたいとは思いませんでした。それは想像できないほどすばらしい生活だったでしょう。けれども、わたしたちがこの地球に来る前に住んでいた愛する両親と子供たちがいる家族への思い出、あるいは地上で築き、永遠とともに暮らしていくことになる家族へのビジョンが、おぼろげであっても心にあるかぎり、独身のままでいつまでもそこに住みたいとは思いませんでした。天において家族が存在する場所の一つしかありません。それは日の栄えの王国における最高の階級です。わたしたちが望んでいるのはそこへ行くことです。

家族が永遠に結び固められることについて述べた宣言の言葉を聞いて信じる幼子は、家族関係が墓を超えて永続するための儀式が執行され、聖約が与えられる聖なる神殿に参入することを求める人生を歩み始めることでしょう。またそれらの儀式を受けるにふさわしい将来の伴侶と出逢えるように、幼子自らもふさわしくなろうと努め、他の面でも準備を始めることでしょう。これらの祝福にあずかるには、人を完成に至らせるのに役立つ経験が必要であることを、宣言は明らかにしています。幼子である間は気づかないかもしれませんが、決意を固めて一心に努力しても、完成に向って進歩することは決して容易でないことやがて気づくでしょう。そのためには、助けが必要なのです。

幼子は大きくなるに従って、誘惑にさらされることでしょう。罪悪感を生み出すような事柄への誘惑です。わたしたちが皆経験しているように、子供たちはいつかの痛みというものを感じることでしょ。罪悪感というかけがえのない意識を抱いて、それを取り除くことができない人々は、永遠の命を得るために必要な完成への歩みから次第に疎遠になっていくのを感じ、絶望してしまいます。したがって、完成への道を歩むにはどうすればよいかを知っているあなたがたやわたしは、まだそれを知らない人々に伝える気持ちを常に持っていなければなりません。わたしたちがこの気持ちを抱いているのは、彼らもいつかわたしたちが望んでいることを望むようになるに違いないからです。彼らはわたしたちが彼らの兄弟姉妹であり、永遠の命に至る道を知っていることに気がつく日が来ると考えているからです。将来、彼ら

もわたしたちと同様に、物事のありのままの姿を見る時が来ることを考えれば、会員伝道は難しいことではありません。

人の命の尊厳

永遠の命についてわたしたちが持っている知識に照らしてみると、宣言で用いられている幾つかの言葉には特別な意味があることが分かります。それらを次の2段落に見ることができます。

「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。」

これらの言葉を信じる幼子は、一部の大人たちが展開している論理に潜む誤りをいとも簡単に見破ることができます。例えば、思慮分別を備え権力を手にしていると言われて人々が、貧困と飢饉の原因を地球全体あるいは一部の地域に人口が多すぎるせいだと言って非難しています。彼らはまるで産児制限が人類の幸福をもたらすかのように、非常な熱意を込めて訴えています。宣言を信じる幼子は、預言者ジョセフ・スミスを通して主が語られた次の言葉を耳にする以前から、そのようなことはあり得ないと知っています。「地は満ちており、十分にあり余っている……。まことに、わたしはすべてのものを備え、人の子らが自ら選択し行動する者となるようにした。」(教義と聖約104:17)

「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力に関連したものでした。」



写真/クレイグ・ダイヤモンド

地上に人が生まれ来ることによって地が減びるとすれば、主は男と女に結婚して増えよ、地に満ちよとはお命じにならなかったことを幼子は知っているのです。地は十分にあり余っているので、子供たちの誕生は人類の幸福にとって敵であるはずはなく、また貧困と飢饉の原因となることもありません。人は自ら選択し行動する者ですから、間違ったのは人の方です。人々は地球とどのように付き合ったらよいかを神に尋ね求め、神が教えてくださるはずの方法を実行していないのです。

純潔に関する戒めについても同じことが言えます。生殖の力を夫と妻の間だけで用いるということは、制限を設けているのでなく、むしろこの力を増大し、高めているのです。子供たちはこの世と永遠にわたってわたしたちが主から受け継いでいるものです。永遠の命はこの世から永遠にわたって子孫を持つことだけではありません。永遠に増し加えることでもあります。これが、聖なる結び固めの儀式を執行する権能を持つ神の僕により、神殿において夫婦となる人々を待ち受けている行く末です。主はこのように言われました。

「わたしの僕が彼らに授けたすべての事柄は何であろうと、この世においても永遠にわたっても、彼らに行われ、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。そして、彼らはそこに置かれる天使たちと



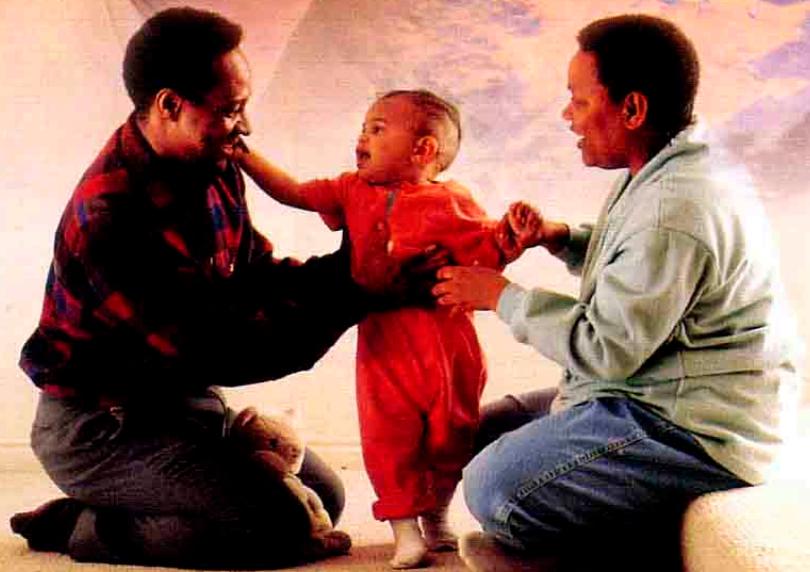


神々のそばを通り過ぎ、彼らの頭こらへに結び固められたように、すべての事柄について昇栄と栄光を受けるであろう。その栄光とは、とこしえにいつまでも子孫が満ちて続くことである。

それで、彼らは神々となる。彼らには終わりが無いからである。それゆえ、彼らは続くので永遠から永遠に至る（教義と聖約132：19-20）。

この聖句から皆さんは、なぜ天の御父が生殖の力を使うことについてそれほど高い標準を定めておられるかを理解することができると思います。子孫が続くことは永遠の命の中心となる事柄です。主イエス・キリストは永

「生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。」



遠の命がどれほどの価値を持つものであるかを述べておられます。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大なるものである。」(教義と聖約14:7)

わたしたちは天の御父がなぜ、命に対して畏敬の念をもって接し、命を生み出す力を神聖なものとして大切にしよう命じておられるのかを理解することができます。わたしたちがこの世で畏敬の念を持つことができなければ、御父はわたしたちにその力を永遠に与えるようなことをなさるでしょうか。この世における家族との生活は、次の世において家族と生活するために準備をさせる学校のようなものです。次の世で家族との生活を送ることが、過去においても現在においても創造の目的です。エリヤの来訪が次のように説明されているのはこのためです。「彼は先祖に与えられた約束を子孫の心に植え、子孫の心はその先祖に向かうであろう。そうでなければ、主の来臨の時に、全地はことごとく荒廃するであろう。」(ジョセフ・スミス—歴史1:39)

一部の人々は、この世で結婚して子供を持つことを心から望んでいても、その実現が引き延ばされたり、まったく実現しなかったりすることがあります。それは彼らにとってこの死すべき世という学校における試験となります。正義と愛にあふれる御父と御子イエス・キリストはそのような悲しみをも祝福に変えることができになります。永遠の命という祝福を得るために信仰と思いを尽くして努力するならば、いかなる人もその祝福を拒否されることはありません。忍耐と信仰をもって現在を堪え忍んでいる人々は、やがてどれほど大きな喜びを得、心からの感謝をささげることになるのでしょうか。

家族との生活において幸福を得る

宣言はこの世における家族との生活で学ぶ事柄について次のように宣べています。

「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜わった嗣業であり』(詩篇127:3)とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育

て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、救し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽の原則にのっとって確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るといふ責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。」

これら二つの段落には実際面での応用が数多く記されています。家族の霊的、物質的必要性を満たす務めに関して、今から始められることがあります。その必要が生じるはるか以前の現在から準備できる事柄もあります。わたしたちはその準備のために力の限りを尽くすことによって、心に平安を得ることができます。

最初に、失敗につながるような計画ではなく、成功するための計画を立てます。わたしたちに対して、ある統計数字を持ち出して説き伏



せようとする試みが、毎日のようになされています。この統計とは、「愛に満ちた父親と母親、そして宣言において勧められているように愛を注がれ、教えを受け、関心を寄せられている子供たちで構成されるような家族は、恐竜がたどったと同じように破滅への道を歩んでいる」というものです。義にかなった人々が環境のゆえにやむを得ず家族の離散に甘んじる場合があるという事実を、皆さんは自分の家族や親戚しんせきの中でも目にしているかもしれません。周囲の要因から無理に押しつけられている状態にとどまるのではなく、神が明らかにしておられる理想を追求する計画を立てるには勇氣と信仰が必要とされます。

逆説的な表現をすれば、失敗するような計画を立てれば、成功よりも失敗する可能性の方が高くなり、理想からも離れていきます。一例として、互いに密接な関連を持つ次の二つの戒めについて考えてみてください。「父親は……家族〔に〕……生活必需品を提供〔す〕……するという責任を負っています。」「母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。」これがどれほど大変な責任かを知っているため、一部の青年はたとえ対等のパートナーとなるために家庭で過ごす時間を十分に取れないことが分かっているにもかかわらず、どれほど多くの収入が得られるかを優先させて職業を選ぶことでしょう。これによって彼は、最も良いことを行うことを望めない決断を下しているのです。これと同様に、一部の女性は、結婚しない可能性、子供を持たない可能性、子供を産んでも自分だけで養っていかなければならなくなる可能性を考えて、その結果子供を養い育てるという最も大切な責任を果たすことのできない職業を選ぶことでしょう。あるいは、家族を養い育てるために必要な福音に関する教育と世の中の実用的な知識の習得を目指そうとしないかもしれません。彼女たちはやがて築くことになる家庭でこそ自分の才能と教育が最も生かされることに気づいていないのです。若い男女はこのような計画を立てたために、本来は家族にとって最も必要なものを得ることができなくなるのです。

もちろんこれらの男女はともに、自分の将来の家族にとって物質的な必要を満たさなければならないことを心配するだけの分別は持っています。平均的な給与と比較すると家を買う費用はふくらんでいるようですし、仕事を維持することもままならなくなっています。けれども、若い男女が将来の家族を養うための準備としてほかの方法を考えることができます。収入はその一部分にすぎません。経済的なピンチに立たされた夫婦が家族の収入を増やす手段を取ってどれほどの収入を得たとしても、すぐに新たな経済的危機がやって来ることに皆さんは気づいているのでしょうか。昔から言い伝えられている公式に

このようなものがあります。「5ドルの収入に対して、支出が6ドルであれば、それは悲惨だ。4ドルの収入に対して、支出が3ドルであれば、それは幸せだ。」

青年が家族を養い、仕事を終えて普通の時刻に家族の待つ家庭に帰って来ることができるかどうか、妻が家において子供たちを養い育てることができるかどうかは、収入を得る方法を学ぶのと同じくらい、金銭をどのように使うかを学ぶことにかかっているのです。ブリガム・ヤング大管長が当時の人々に対して語った次の言葉をそのままわたしたちにも当てはめることができます。「もしあなたが金持ちになりたいと思うならば、手に入ったものを蓄えなさい。愚か者であっても金を稼ぐことができます。しかし賢い者は蓄えて、自分の利益になることにそれを使います。ですから、出て行って働き、あらゆるものを蓄えなさい。ボンネット(訳注—19世紀の女性が用いた日除け用の帽子)や衣類は自分で作りなさい。」³

現在の社会では、ヤング大管長は若い男女に帽子を作



写真/ジェド・クラーク

「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」





るようにと言う代わりに、車、衣類、レクリエーション、家、休暇がほんとうに必要なかどうか、子供たちのために将来何が必要とされるかを注意深く考えなさい、と提案することでしょう。世の人々が子供たちに必要だと主張するものと、子供たちが実際に必要とするものとの間には、そのための代価の面で大きな差があります。また、ヤング大管長は、子供たちを天の御父のもとへ連れて帰るといふ両親の大切な目的のために、その差額を活用できる、と指摘することでしょう。

非常につまみしい生活を営み、慎重に考慮して職業を選んだとしても、成功が保証されるわけではありません。しかしながら、家族を養育するために全力を尽くしたという自覚から生まれる平安を得ることはできます。

たとえ前途に苦難が待ち受けているとしても、成功を勝ち取るための方法をもう一つ考えることができます。宣言には子供たちを教えるわたしたちの義務について高い標準が掲げられています。わたしたちは何とか工夫を凝らして子供が互いに愛し助け合い、戒めを守り、法律に従う市民となるよう教えなければなりません。この義務を果たしていないにもかかわらず、あるいはほとんど果たしていないにもかかわらず、いささかも失敗を味わうことのないまま1世代、2世代と続くすばらしい家族を夢想しているのであれば、わたしたちを待っているものは落胆しかありません。

わたしたちは自分以外の人々がどのような行動を選択するかコントロールすることはできません。したがって、子供たちを天国へ行くよう強制することはできません。けれどもわたしたち自身が何を行うかを心に決めることはできます。また、わたしたちが永遠にともにいたいと熱望する家族に天の力をもたらすために全力を尽くそうと決意することはできます。

わたしたちにとって鍵となる事柄が宣言に記されています。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」

どうすれば家族の一人一人が互いに愛し合い、助け合い、神の戒めを守り、法律に従うようになるのでしょうか。ただ福音を教えていればそれを実現できるかといえ、そうではありません。一人一人が神の言葉を聞き、信仰をもってそれを実践することによって実現できるのです。そうすれば、彼らの性質が変えられて、自分たちが望んでいる幸福を手にすることができるのです。モルモンは、この変化こそがイエス・キリストの福音に従って生活することによりもたらされる自然の実であると、次のように説明しています。

「悔い改めの最初の実実はバプテスマである。バプテスマは信仰によって行われ、戒めを守ることである。そし

て、戒めを守ることは罪の赦しを生じ、

罪の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによって、すべての聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。」(モロナイ8：25-26)

子供たちにバプテスマの準備をさせるとき、正しく行うならば、わたしたちは子供たちの生活に贖罪の効果をもたらす、家庭に天の力をもたらすための準備をすることになります。わたしたち全員が必要としている変化について考えてください。わたしたちは熱心に祈って堪え忍ぶことができるように、聖霊を通して希望と完全な愛に満たされる必要があります。わたしたちは希望と完全な愛を受けらば、家族として神とともに永遠に住むことができます。どうすれば聖霊を招くことができるのでしょうか。モルモンは息子のモロナイに対して単純明快に答えています。イエス・キリストを信じる信仰をもって悔い改めた後に、権能を持つ人によって罪の赦しをもたらすバプテスマを受けることです。これによって柔和で心のへりくだった状態が生まれます。そうすると聖霊を伴伴とすることができます。そして聖霊は希望と完全な愛を人の心に満たしてください。

わたしたちが望んでいるこの愛と幸福について、宣言は次のような約束を与えています。「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」これらの言葉を読む多くの人々はイエス・キリストの教えを知らない人々や否定する人々に囲まれているという現実を考えると、心が痛みます。彼らができるのは全力を尽くすことだけです。けれども、このことも知っておいていただきたいのです。どれほど多くの苦難に囲まれている家族であっても、そのことを愛に満ちた天の御父は御存じです。永遠の命を得るために必要とされるあらゆることを行う方法が備えられています。彼らは神がどのようにしてその賜物をお与えになるか、まただれとその賜物を分かち合うことになるかを知らないかもしれません。けれども、イエス・キリストの福音が与えている約束は必ず果たされます。

「しかし、義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受けるということを知っておきなさい。

主なるわたしがこれを語った。そして、御霊が証する。アーメン。」(教義と聖約59：23-24)

贖罪の効力がわたしたちの生活に効力を及ぼしているという確信、そしてこの確信から生まれる永遠の命への

希望から、この平和はもたらされるのです。

宣言は、そこで教えられている真理に従わない人々に対して、その結果がこの世における平和すなわち幸福の欠如だけにとどまらないことを警告しています。預言的な意味を含んだ警告と行動を呼びかける言葉をもって宣言は結ばれています。

「わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言している災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。」

家族は社会と教会の基本的な単位であるばかりでなく、永遠の命への希望をつなぐ基盤です。わたしたちはまず小さな単位である家族で実行します。それは教会と、わたしたちがこの世で暮らす社会に広まります。家族で実行している事柄は、聖約によって、また忠実であることによって永遠に効力を及ぼします。わたしたちは今、「家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進め」始めることができます。皆さんがこれを実行するようわたしは祈っています。また、皆さんが「天の父よ、どのように準備したらよいでしょうか」と尋ねることを願っています。天の御父があなたに与えようと願っておられるものをあなたがどれほど熱望しているかを御父に話してください。そうすれば靈感を受けるでしょう。その導きに従って実行するならば、天の力による助けを受けることをわたしは約束します。

わたしは天の御父が生きておられること、わたしたちは霊として御父とともに住んでいたこと、どこかで孤独感を抱きながら生活しているわたしたちも来るべき世では御父とともに住むことができることを証します。イエス・キリストがわたしたちの救い主であられること、あら

ゆる人の罪のために苦しみを受けることによって主はあなたとわたしに変化をもたらすことを可能にしてください、その変化はわたしたちに永遠の命をもたらすことを証します。聖霊は希望と完全な愛でわたしたちを満たしてくださいることを証します。ジョセフ・スミスに回復され、現在ゴードン・B・ヒンクレー大管長が持っている結び固めの力により、わたしたちが信仰をもってできる限りのことを行うならば、家族として結び固められ、永遠の命を受けることを証します。□

注

1. これらの宣言はダニエル・H・ラドロー編、*Encyclopedia of Mormonism* 『モルモニズム百科事典』(1992年) 3: 1151-1157に収められている。
2. 『聖徒の道』1996年6月号、10-11
3. *Journal of Discourses* 『説教集』11: 301

「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」



家族

世界への宣言

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会ならびに十二使徒評議会

わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするものです。

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫婦は、互いに関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜わった嗣業であり』（詩篇127:3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、

また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽の原則にのっとり確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を押し進めてくださるよう呼びかけるものであります。□

この宣言は、1995年9月23日、ユタ州ソルトレーク・シティーで開催された中央扶助協会集会において、ゴードン・B・ヒンクレー大管長により、メッセージの一部として読み上げられたものである。

日の栄えの結婚

ブリガム・ヤング大管長は、日の栄えの結婚は「英知ある者が栄光と不死不滅、永遠の命を与えられる基となるものです。実際結婚は、神聖な救いの福音……の初めから終わりまで途切れずに続く糸で」すと教えました（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』180）。なぜなら、結婚の新しくかつ永遠の聖約を受け、それを守ることにより、わたしたちは日の栄えの王国における最高の階級を受ける備えができるからです（教義と聖約131：1-3参照）。

永遠の結婚にふさわしく生活する

日の栄えの結婚を得るための第一歩は神殿結婚です。残念ながら、神殿結婚を望むすべての人がすぐにその祝福を受けられるわけではありません。しかし、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が語ったように、「愛に満ちた天父と聖なる贖い主の計画にあって、ふさわしい人から永遠に祝福が取り去られることはない」のです（『神の娘』『聖徒の道』1992年1月号、110）。

主はわたしたちのふさわしさと心の願いを知っておられ、わたしたちの忠実さに対して祝福して下さいます。

一方、神殿結婚する機会を得た人は、約束されている特権を享受するためには神殿で交わした聖約を守らなければなりません。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老は次のように教えました。「日の栄えの結婚、または永遠の結婚は、昇栄に至る門である。永遠の命を得るためには、人はこの結婚の聖約に入り、それにかかわる

すべての聖約と義務を守らなければならない。」（Doctrinal New Testament Commentary, 3 volumes [1966-73] 1：547）

この世の祝福を伴う永遠の聖約

神殿結婚は永遠の約束を伴うものですが、日の栄えの結婚の祝福を受けるのに、永遠に待つ必要はありません。神殿結婚に備えていく中で、また実際神殿結婚をすることによって、この世でも多くの祝福がもたらされます。約8年前、香港のリー・ヒンジュン氏は職場の事故で片腕を失いました。その結果、彼は仕事を失い、さらには病気になる、すっかり落胆していました。しかし現在、彼の心は信仰で満たされています。妻のクムビエンクムボンズと子供たちと神殿で結び固められることについて真剣に考えているからです。

「教会に入る前のわたしは金もうけのことしか頭にありませんでした。現在のわたしにはお金よりも大切なものがあります。……わたしたちは一つであること、永遠に一緒にいられることに感謝しています。……神殿の絵を見る度に、わたしは善い人間にならないこと、自分を治めなければならないこと、ふさわしくならなければならないこと、再確認しています」と彼は語ります（『夢がかなった、香港の聖徒たち』『聖徒の道』1997年3月号、38）。

もちろん、夫婦の互いへの約束を強める神殿の聖約がなくても、強い結婚のきずなを持つことはできま

す。しかし、神殿結婚は永遠の観点を与え、市民結婚よりも大きな神の助けをもたらします。神殿結婚を聖約による結婚と呼ぶ、七十人のブルース・C・ヘーフェン長老はこう語ります。「聖約による結婚に問題が起きた場合、夫と妻は協力して問題を解決します。彼らが結婚したのは与え、成長するためであって、二人は聖約によって互いに、社会に、さらに神に、結ばれています。」（『聖約による結婚』『聖徒の道』1997年1月号、29）

- 日の栄えの最高の階級にふさわしくなるために、わたしたちは何をしなければなりませんか。
- 今日の世の中で、聖約による結婚はどのようにわたしたちを守ってくれるのでしょうか。□

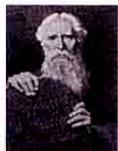




「あなたは盗んではならない」

リチャード・D・ドレイパー

十戒の第8の戒めでは、あらゆる種類の盗みを禁じています。主の律法が教えていることを肯定的に表現すれば、この戒めは、「他人の権利や財産、必要を敬いなさい」ということとなります。



わたしの同僚は、自分の車のウィンドウが割られているのを見るや、青ざめてしまいました。青ざめたのは、ただ単に「ウィンドウを取り替えないといけない」と考えたからではありません。むしろ、長年の仕事の成果が失われてしまうかもしれないという恐れの子だったのです。すぐにその恐れは現実のものとなりました。何者かに彼の書類かばんが盗まれていたのです。

ある大きな町で講演を依頼されていたこの教授は、予定していた時間よりも遅く着いたために、講演会場から少し離れた狭い通りの片隅に車を止めておきました。そして、資料のいっぱい詰まったかばんを持って会場まで行かずに済むように、彼は講演で使う資料だけを取り出して、擦り切れたかばんを車の座席の上に残して行ったのです。見るからに使い古したかばんで、中には金銭的に価値のあるものはほとんど入っていなかったため、よもや盗まれることなどあるまいと考えたわけでした。残念なことに、その思いは裏切られました。

後日、彼から盗難に遭ったことで受けた失意と悲しみについて聞かされたとき、わたしの心はひどく痛みまし

神は、その子供たちに、個人の労働の実を楽しむ自由を与えられました。アダムは、他人の汗によってではなく、自分の「額に汗してパンを食べることを」学びました。そして、「彼の妻エバも彼とともに働いた」のです。



た。あの古い書類かばんの中には、何百キロという旅の成果と、数千ドルの研究助成金を費やした書類、数か月にもわたる慎重な調査と分析、研究、熟考と著述の集大成が入っていたのです。かばんの中に入っていた本ほどの厚さの書類も、彼以外の人間にとっては、まったく金銭的な価値がないものです。しかし、その窃盗犯が恐らくはいまましげに投げ捨てたであろうその書類は、ある人にとっては、人生の大切な一部とも言えるもの

だったのです。

盗みとは往々にしてこういうものです。物そのものよりもはるかに大きなものが盗まれるのです。だれかが第8の戒めを破るとき、被害者は平安を奪われるだけでなく、自分の人生の一部とも言えるものまで奪われてしまうのです。

第8の戒めの意味

この戒めを通じて神がイスラエルの民に下された命令は、ヘブライ語でも直接的で力強いものです。「ロウ・ティグノブ」というのは「あなたは盗んではならない」という意味ですが、「ティグノブ」の語源となっている「ガナブ」という語には、「盗人となる」あるいは「盗む」という意味があります。さらにこの語には、暗に「欺き」「内密」という意味も含まれています。「旧約聖書」のギリシャ語版では、このヘブライ語を、ギリシャ語の「クレプト」という語に訳しています。この「クレプト」という語には、ヘブライ語の「ガナブ」と同様、「他人が合法的に所有するものを内密に、また巧妙に奪い取る」という概念が含まれています。「横領」や「着服」といったものも、その意味での「盗み」の典型的な例です。「欺く」とか「だます」といった語も、この「盗み」の範疇に入る言葉です。

では、力づくで物を取ることはどうでしょうか。ヘブ

ライ語の「ガナブ」と密接に関連した語に「ガザル」という語がありますが、これは「奪う」という意味です。この語には、対立、暴力、脅迫といった意味合いが色濃く出ています。神は、「あなたの隣人をしえたげてはならない。また、かすめてはならない」(レビ19:13)と命じておられるのですから、主にとって、盗むという概念には、奪うこと、強奪すること、略奪すること、さらにまた不法に入手することなどがすべて含まれるわけです。

『聖書』が強調していることは、盗むという行為は、殺人や姦淫、偽証^{かんいん}といった罪とほぼ同列にあるということです。ここに挙げた罪は皆、直接関連し合っています。盗むという点で共通したものを持っているからです。殺人は生命を不法に奪うこととすし、姦淫は貞節を奪うことと関連しています。さらに、偽証によって、通常、人の名声や財産、品物が奪われることとなります。

「あなたは盗んではならない」(出エジプト20:15)という文には、「何を」盗んではならないのかについては書かれてありません。ですから「盗んではならない」という範囲は広く、無条件です。どんなものであっても盗んではならないのです。奴隷制度が一般的だった時代であっても、主はその律法を通して、財産だけでなく、人々をも、不法な略取から守る手立てを講じられたのです。1

この戒めの適用範囲は、人は無視することによってほかの人から何らかの機会を奪うようなことがあってはならないという教えにも及んでいます。実際、『聖書』では、無視することは不作為の罪であると教えています。キリストの真の弟子ならば、たとえ見知らぬ人に対しても、良い隣人にならなければならず(申命22:1-4参照)、また、困難なときであっても困っている人を助けなければならないのです(箴言24:10-12参照)。ある学者は、箴言のこの3つの節を調べて、次のような注釈を施しました。「条件も十分に整っていないと訴え[10節]、まるで希望のない仕事だと嘆き[11節]、無視しても許してもらえらるだろうと考える[12節]のは、真の羊飼いでなく、雇い人である。愛というものはそれほど軽々しく沈黙を決め込むものではない。愛の神についても同じである。」² 不作為の罪について、当時十二使徒定員会の一員であったスペンサー・W・キンボール長老は、次のように論じています。「盗みを働かないというだけではなく、他人の財産を守るようにまですべきである。」³

3つの重要な原則

第8の戒めをじっくりと研究してみると、3つの原則があることが分かり、その原則を通じて、盗みがなぜ神の目から見て罪であり、また社会的にも犯罪となるのか、その理由がよく理解できます。

第1に、この戒めは私的財産の所有権を保証

しているということです。つまり、人が生きていくうえで必要とされる責任を保護しているということです。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、次のように教えています。「人が合法的に所有しているものや財産についてその所有権が保護されることなく、また、その損失や破壊に対して法律によって補償されることがなければ、自由というものはあり得ない。この権利を奪われたら、人は農奴の時代に逆戻りするだけである。かつて合衆国最高裁判所の判事であったジョージ・サザーランドは、このことについて次のように言っている。『[人に]自由を与えておきながら、その自由の成果であり勲章であるはずの財産を取り去るようなことがあるとしたら、人はまだ奴隷の境遇に置かれているのである。』」⁴

神は、その子供たちに、アダムを通じて、地を支配する権限を授けてくださいました。つまり、個人の労働の実によって物を生み出しそれを楽しむ自由を、子供たちに与えられたのです。アダムは、他人の汗によってではなく、自分の「額に汗してパンを食べることを」学びました。そして、「彼の妻エバも彼とともに働いた」のです(モーセ5:1,下線付加)。

第2は、この第8の戒めが、人や国家ではなく、神こそが財産の私的所有権の源だと教えているという点です。あらゆる戒めは、神がその源となっています。その神は、

ノアの時代に、闇の働き手たちが殺人と盗みによって欲望を満たそうとして作った秘密結社は、暴虐で地を満たしました。その結果、神は大洪水を送り、邪悪な人々をことごとく葬り去られたのでした。



統治の主として、また天地の創造主として、神の王国を治める数々の律法を定めておられます（教義と聖約 88：34-42参照）。地球は神の所有物ですが、神は人類にその所有の役割を分担して果たすよう定められたのです。しかしながら、人はその役割を果たすに当たって、神の神聖な律法に従わなければならないことは言うまでもありません。

第3は、盗みを働く人は神に背いているという点です。あらゆる神聖な律法は神に源を発するものですから、そうした律法に違背するということは、神に背くこととなります。ですから、神の戒めを基としたこの世の法律、それは例えば、個人や家族、財産や資本や労働、あるいはまた国家や教会に焦点を絞った法律のことですが、そうした法律を破ることは、天の御父に背くことになるわけです。ダビデ王はこのことを認識していて、自分が他人の妻を奪い取り、さらにその人を殺害させてしまったことに触れて、次のように叫んでいます。「わたしはあなたにむかい、……罪を犯し、あなたの前に悪い事を行いました。」（詩篇51：4）⁵

盗みを働くということは、たとえ必要に迫られたり困窮していたりして、やむにやまれぬ動機があったとしても、天の御父に背く罪です。そうした行為は神の名を汚します（箴言30：9参照）。反対に、どのように切羽詰まった状況にあっても決して盗みを働かない正直な人は、神を信頼していることとなります。主と聖約を交わしたことを常に意識し、その聖約を守り続けることを選んだわけです。

以前、ある学生がわたしに話してくれた体験談は、この正直という原則を実に効果的に説明する話です。この学生がまだ幼かったころ、父親が事業に失敗しました。しかし、必死に働いた父親は新しい事業を興しました。この事業は、結果的には利益がもたらされるのは確かでしたが、最初のうちは、家族のための収入がひどく少なくなることも分かっていました。そのために、この学生の母親も働きに出ていました。このことは家族にとって、特に父親にとっては、苦しい経験でした。でも、父親は、きつとしばらくの間だけだと見込んでいました。1年もたたないうちに、事業は好転し、母親も仕事を辞めることができるまでになりました。その後、この家族は経済的にも実に安定してきました。

経営学を専攻したその学生が父親の会社で働き始めると、彼は自分の両親が最初に失敗した事業の負債を全額返済していたことに気づきました。破産管理法の下ですべての負債は帳消しになっていたはずなのです。しかし、父親は、新しい事業を始めるとすぐに、その負債を返済

し始めていたのです。彼の母親が働きに出なければならなかった理由の一つもここにあったのです。わたしの友人であるこの若者は、一体どういう考えで、すでに法的には帳消しになっているはずの負債まで返済しようと思ったのか、父親に尋ねてみました。すると、父親はこう説明してくれたのです。たとえ正直な人間であろうと、法的に帳消しになった負債まで返済できる人はそう多くはいないけれど、自分としては、この調子なら長い時間さえかければ何とか負債を返すことができるかもしれないと考えたのだ、というのです。未払いのまままで終わってしまう負債のことが頭から離れなかった彼の両親は、主や主と交わした聖約に対して、それぞれがどれほどの決意で臨んでいるか、再点検せざるを得なくなったのです。二人は、道徳的にはその負債は未払いのままであり、何も返済せずにいることは盗むことと同じだと感じました。そして、父親と母親は、自分たちにまだ債務があると感じていたものを返済するために、二人で心を合わせて働いたのです。こうして、二人も子供たちも祝福を受けたのです。

盗みを働くことと秘密結社

盗みを働くということは、最も大切な天の律法の一つに違背することです。その律法の指示の下に、人類は地を従わせ、神のもとで動物の王国を支配することになっています。これはつまり、天の御父の命じられるままに支配するということです。ところが、ほぼ歴史が始まってからこのかた、反抗的な者たちは、自分たちの掟に従って、民を治めようとしています。手短かに言えば、これが盗むことです。彼らは、地とそこに住む民を支配しようとしています。人類から盗み、動物の王国を奪い、地から略奪しようとしています。しかも、自分たちの創造主であり立法者である御方の手から離れて、ためらうことなく行おうとしているのです。こうして、殺人は、カインの言った「大いなる秘密……であり、人を殺して利を得ること」（モーセ5：31）に直接結びつくものとなりました。

秘密結社と闇の働き手たちは、ノアの時代にはほぼ成功を収めました。その成果として、「暴虐が地に満ちた」のです（モーセ8：28）。「神が地を見られると、それは乱れていた。すべての人が地の上でその道を乱したからである。」（創世6：12）その結果、主は大洪水を送り、「地のおもてから」（創世7：4。モーセ8：30も参照のこと）邪悪な人々をことごとく葬り去られたのです。

しかしながら、大洪水の直後、^{たいはい}退廃が再び始まるまで



に、そう時間はかかりませんでした。サタンの影響を受けた人々が、神の領域を侵そうとして、自分たちにとって都合のよい組織を作り始めたのです。悪魔の力を使いながら、悪しき指導者は「権力を求める者に権力を得させ、殺人と略奪……を犯させ」（エテル8：16）ようと画策して、民の間に悪しき誓いを立てさせ、結束して暗闇の中で一緒に行動するよう仕向けました。そして、こうした秘密は、世代を越えて次々と伝えられていったのです。『モルモン書』の中には、ガデアントンがその典型的な例として登場します。このガデアントンは、「言葉を非常に巧みに操り、またひそかに殺人と強盗を行う悪知恵にも非常にたけていた」（ヒラマン2：4）人物でした。そうした悪事を行う組織は、やがてニーファイの民の間で圧倒的な力を持つようになり、最終的には、ニーファイ人国家の崩壊に直接影響を及ぼしたのでした（ヒラマン2：13参照）。

末日の世界も、同じような問題に苦しんでいますし、今後もその状態が続くものと思われます。終わりの時の逆説と悲劇の一つは、人々が自ら好んで恐ろしいほどの破滅を招きながら、「その犯した殺人や、まじないや、不品行や、盗みを」（黙示9：21）悔い改めようとしないことなのです。

歴史を通じて、主が人類に教えようと努めてこられたことは、地から生み出される豊かなものを人類が良いことのために活用することです。例えば、主はモーセを召されて、イスラエルの子らの中に義にかなった社会を作り上げるため、数々の律法を定められました。主がそのような社会を作るに当たって意図されたことは、個人一人一人が完全な成長を遂げることができるよう、社会がその助けになるということでした。そうした社会では、各個人が労働の対価として所持している財物についてはその所有権が保証されるということも大切な規範の一つです。しかしながら、他人の財物を支配したい、あるいは所有したいという欲望を抑えることができない人々が大勢いることも事実です。例えば、預言者アモスは自分の民について、次のように言っています。「これは彼らが正しい者を金のために売り、貧しい者をくつ一足のために売るからである。」そして、その貪欲さが著しく高ずるあまり、彼らは弱者の頭を地のちりに踏みつけることまですると言っています（アモス2：6-7）。そして、万物を与えてくださったはずの御父にささげ物を差し出そうとしない人々について語るに当たり、マラキは率直にこう問いかけています。「人は神の物を盗むことをするだろうか。」（マラキ3：8、下線付加）

悲しいことに、わたしたちはこの時代にあって、貪欲な人々の存在に慣れすぎてはいないでしょうか。彼らは人と分かち合うことを拒んでいるだけでなく、どんな手

段を使ってでも、どんな人からでも、どんなものでも、喜々として奪い取ろうとしているのです。

もしわたしたちが思慮深ければ、わたしたちは人々を愛し、わたしたちの天の御父が意図されたように、物を利用するはずで、不道徳な行いは、わたしたちが物を愛し、人々を利用するとき起こります。人の一生を財産の方に向けさせ、神の子供たちを家財道具以下の存在にしてしまうことは、サタンがカインに教えた恐ろしい考え方のものなのです。

救い主が定められた、より高度な律法

救い主は、この地上におられるときに、神の王国に関してより高度な律法を再び定められました。

『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者が、かかっている。（マタイ22：37-40）

『新約聖書』の中で、悔い改めたキリストの弟子たちは、この愛の律法に従って新しい人として生きるように勧められています（ローマ6：4；ヘブル10：19-24参照）。この律法は、わたしたちが他人に関して課せられている義務の全体像に、あるいは、人と主に仕えるための能力という点に、影響を及ぼさずにはおかないはずで、だからこそ、パウロは、かつて盗みを働いたことがある人々に対して、「今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをなささい」（エペソ4：28）と強く訴えかけているわけです。

さらに、わたしたちが過去の罪を捨て、主の模範に従って生きたいと願うならば、わたしたちが毎日の義務を果たすに当たって、最高度の道徳上の標準がなければならないことに気づくはずで、スペンサー・W・キンボール大管長は、その点について次のように指摘しています。「正直であることを教えることはできるが、それを法制化することはできない。多くの人々が、世の乱れがその頭をもたげてきたとき、『何か法律がなければならぬ』と言う。それに対するわたしたちの答えはこうである。すでに律法が存在している。しかも、決して強制されない、数々の律法が存在しているのである。だから、わたしたちがさらに答えを続けるとすれば、慈しみも名誉も正直も法制化することはできないということである。そうした価値観に基づく行動に対しては、良心にその報いがあるはずである。』⁶ 人々がそのような価値観に基づいて行動するとき、御霊の力や愛の強さが、法律



歴史を通じて、主が人類に教えようと努めてこられたことは、地から生み出される豊かなものを人類が良いことのために活用することです。それには、各個人が労働の対価として所持している財物についてはその所有権を保証されるということも含まれます。



ではできないことを可能にします。つまり、やがて盗みにつながるような貪欲さや羨望の気持ち^{せんぼう}を克服することができるのです。

ほんとうの対価

何年か前のある春の日の朝、わたしは妻と二人で、我が家の庭の片隅の日の当たる場所に、小さなサクランボの木を植えました。そして、やがて豊かな収穫を楽しむ日を夢見たのです。ところがその翌朝、妻がしばらく庭へ出ていたかと思うと、驚いた表情で戻って来ました。「だれかがわたしたちの木を持って行ったわ。」間違いなく、泥棒が掘り起こして行ったのです。残されたものは、何も植わっていない穴だけでした。

確かに金銭的にわたしたちが失ったものは大した額ではありませんが、植える場所を準備するために、木を買

うために、そしてそれを植えるために使ったすべての時間を失ったこととなります。それでもわたしたちは、はるかに大きな損害を被ったほかの人々と比べたら、幸運でした。それにしても、あの木を持って行った人は、盗みという行為に対して支払わなければならない霊的な対価について、少しでも考えたことがあるのでしょうか。

結局は、盗みを働く者はどのような状況であろうとも、人のものを盗んだという事実から逃れることはできません。盗みを働く者たちは自らの霊を破滅の危機にさらしています。神の戒めに背いたわけですし、また、それによって、結果的には、ほかの人以上に自分自身の身を滅ぼすことになったからです。天の御父は、御子を通して、わたしたちに次のおおじになりました。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)「完全」と訳されているギリシャ語の原語は、「欠けたところのない」とか「完璧な^{かんぺい}」という意味です。その中には、当然、「高潔」という意味合いも含まれています。

天の御父は完全な御方です。完璧な高潔さをお持ちの御方です。わたしたちは、その子供として、天の御父のようになることのできる可能性を持っています。しかし、わたしたちの行いが、わたしたちの内にある神のような特質を培わないようなものであれば、それは、自分自身つまり本来の自分、そしてわたしたちと天の御父との永遠の関係を台なしにすることになります。盗みを働くことになれば、そのほかの神の戒めを故意に破った場合と同じように、「完全」へと向かう努力から人を遠ざけてしまうのです。

盗みを働くことは、神から与えられた可能性を弱めることであるとともに、従順な者たちに用意されているあらゆる祝福の機会をせばめることです。また、従順な者たちのこの世の働きの成果を奪うことでもあります。悔い改めをしなければ、自ら永遠の命を奪うことになるのです。□

注

- 1 デール・パトリック、*Old Testament Law* 『旧約聖書の律法』55-56
- 2 デレック・キドナー、ルーサス・ジョン・ラッシュドゥーニー、*The Institutes of Biblical Law* 『聖書の律法制度』465で引用。464-465も参照
- 3 『救しの奇跡』105
- 4 *The Teachings of Ezra Taft Benson* 『エズラ・タフト・ベンソンの教え』608
- 5 *The Institutes of Biblical Law* 『聖書の律法制度』10-13参照
- 6 *The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』エドワード・L・キンボール編、193



国際機関誌の紹介

全世界のための 機関誌

編集主幹：マービン・K・ガードナー

「今わたしたちは非常に不確実な世の中に住んでいますが、わたしたちには教会のすばらしい未来が見えます。わたしたちが自らの価値観を固く守り、受け継ぎを強固なものにし、主の

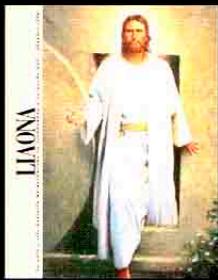
前に従順に歩むなら、また純粋に福音に添って生活するなら、わたしたちはとてもすばらしい方法で祝福を受けましょう。

教会の会員として、わたしたちがそ

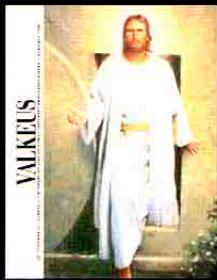


ピンクレー大管長 写真/クレイグ・ダイヤモンド

の価値観を守り、主の前に従順に歩むための助けとなる驚くほどたくさんの援助手段が教会にはあります。その手段の中の一つが教会で発行されている機関誌です。教会機関誌の記事を通し



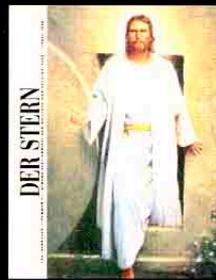
*フィジー語
『リアホナ』



フィンランド語
『リアホナ』



フランス語
『星』



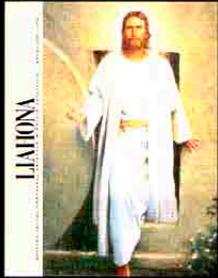
ドイツ語
『星』



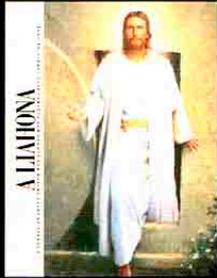
ハンガリー語
『リアホナ』



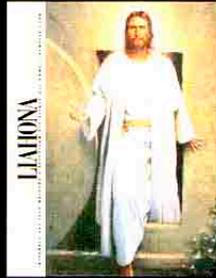
アイスランド語
『希望の星』



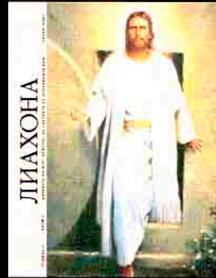
*ポーランド語
『リアホナ』



ポルトガル語
『リアホナ』



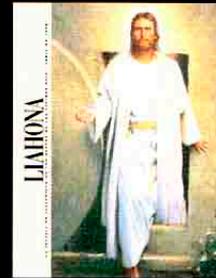
*ルーマニア語
『リアホナ』



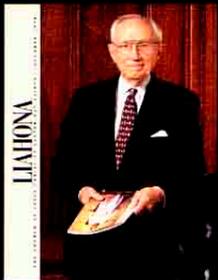
ロシア語
『リアホナ』



サモア語
『リアホナ』



スペイン語
『リアホナ』



*セブ語
『リアホナ』

国際機関誌は31か国語で発行されている。フィリピンの一言語であるセブ語版は最新の版で、今月創刊となる(左)。星印の機関誌は1998年創刊のもの。

て、生ける預言者と十二使徒の言葉がわたしたちの家庭に定期的に届き、わたしたちとわたしたちの家族に靈感と導きを与えてくれるのです。

世界中の教会員の皆さんに教会機関誌を購読するよう強くお勧めします。神権指導者の皆さんは、すべての末日聖徒の家庭がその機会にあずかれるようにしてください。」(大管長会—ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト、1998年4月1日)

世界規模の機関誌

ソルトレーク・シティーにある教会

本部の編集室には、国際機関誌の出版に関する質問がしばしば寄せられます。以下に掲載するのは、それらの質問に対する回答と追加情報です。

●国際機関誌は何か国語で出版されているのですか。

現在、31か国語で出版されています。それ以外の言語による出版も将来行う予定です。

●機関誌の内容はどの言語の版も同一なのですか。

ニュース記事を除くすべてのページは、どの言語の機関誌でも同じです。同じ記事、同じ図版、同じ挿絵、同じ写真を使っています。ニュース記事の

ほとんどは、地元で編集されたもので、読者の地域内の教会員や教会での出来事に関する記事が盛り込まれています。

●機関誌の名前はどの言語の版でも皆同じですか。

内容は同じですが、名前は異なります。18の言語の機関誌は『リアホナ』と名付けられています。『モルモン書』に出てくる、コンパスや方向指示器を意味する言葉から取られています。10の言語の機関誌の名前には、「星」「光」「ともしび」などの言葉が使われています。それ以外の機関誌は、『聖徒の声』『聖徒の道』『聖徒の友』として知られています。国際機関誌という言葉

は、それらすべてを指しています。

●国際機関誌は、単に『エンサイン』(Ensign)を翻訳したものです。

いいえ。国際機関誌では、『エンサイン』、『ニューエラ』(New Era)、『フレンド』(Friend) (いずれも英語で発行されている教会機関誌)に掲載された記事をすべて含んでいるわけではありませんが、幾つかの記事はこれらの機関誌から採用されています。そして同じ月に同時に掲載されることもあります。また最初に国際機関誌に掲載され、後に英語の機関誌に掲載される記事もあります。

国際機関誌の歴史と現在

最初の末日聖徒の機関誌であった『イブニング・アンド・モーニング・スター』(The Evening and the Morning Star)は、ミズーリ州インディペンデンスで1832年に出版されました。教会が組織されてから2年後のことです。

英語以外の最初の末日聖徒の機関誌は、1846年にウェールズ語で出版されました。それに続く英語以外の末日聖徒の機関誌として、1850年にフィンランド語で、1851年にデンマーク語、フランス語、ドイツ語で出版されました。その後の年月を経て、それ以外の言語の機関誌が出版されました。そして1967年に、英語以外のすべての末日聖徒の機関誌は、様々な言語の版を持つ同一内容の出版物として統一されました。

教会は、1977年に英語版の国際機関誌の出版を開始しました。英語版の『リアホナ』は、おもにアメリカ、カ

ナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド以外の英語圏で使用されています。この機関誌は世界のどこからでも入手できます。

幾つかの言語の機関誌は毎月発行されています。また、2か月に1度や3か月に1度発行されているものもあります。発行頻度は、ソルトレーク・シティーの幾つかの教会評議会で決められます。その決定は、地域会長会の推薦、その言語を話す末日聖徒の家族数、発行部数、翻訳と制作上の許容量などに基づいてなされます。

大管長と家庭訪問のメッセージは、毎月63か国語で入手することができます。2か月に1度や3か月に1度発行される国際機関誌を購読している会員は、機関誌掲載の書式になっていないものの、非発行月のメッセージを神権指導者から入手することができます。

31の言語で印刷されている機関誌に加えて、この2つのメッセージは、現在あと32の言語で入手することができます(次ページの右わく欄参照)。

機関誌の申し込み

まず、自分自身のための購読や継続購読のために申し込みをしてください。住んでいる場所に関係なく、どの言語の版でも購読できます。

また、贈呈用として申し込み、世界のどこにでも送ることができます。友人、親戚、新しくバプテスマを受けた会員、または教会員であるなしを問わず知人など、だれが購読する場合でも申し込みができます。教会機関誌は、結婚式、記念日、誕生日、休暇、卒業、

そのほかの出来事に際して、すばらしい贈り物となります。図書館、学校、病院、医師や歯科医の事務所、そのほかの地元の施設に寄贈することもできます。

国際機関誌の申し込み方法：各号の1ページ目にある申し込み方法によるか、機関誌折り込みの申し込み用紙に記入して注文してください。または、ワード/支部の『聖徒の道』係、幹部書記、書記、監督/支部長に尋ねてください。教会管理本部配送センターに問い合わせることもできます。地域によっては、個人の家に機関誌を送ることができない場合があります。そのような場合、機関誌はワード/支部に送り、その後個人や家族に配られます。

読者からの投書

あなたの意見、提案、証、記事などをお送りください。すべての投書を掲載できるわけではありませんが、機関誌には世界中の読者から寄せられた多くの記事が載せられています。自分の言語で書き、姓名、住所、ワード/支部名、ステーク/地方部名を添えて送ってください。あて先は次のとおりです(いつも機関誌の1ページ目に掲載されています)。—International Magazines, 50 East North Temple, Floor 25, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA

『聖徒の道』の「チャーチ・ニュース」向けに記事を書いてください。この記事の場合は、『聖徒の道』の1ページ目または「チャーチ・ニュース」の最後

のページに記載されている地元の住所に送ってください。

機関誌購読の利点

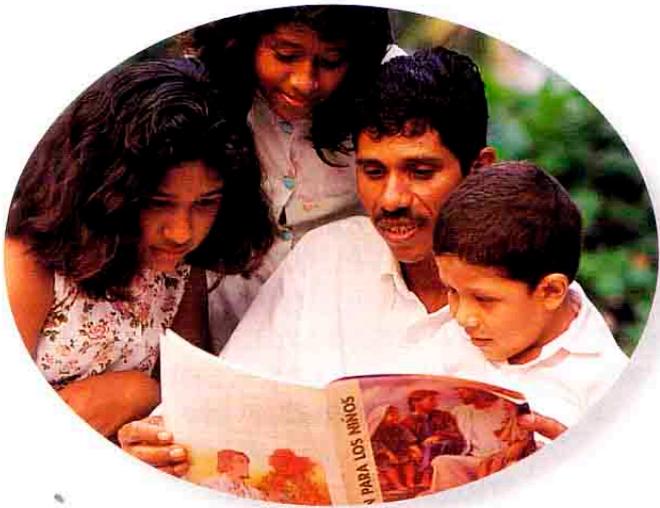
機関誌の各号には、福音の個人学習のためや家庭で福音を教えるための有益な資料が掲載されています。

子供と青少年のための記事と活動が採り上げられています。

ホームティーチング、家庭訪問、初等協会の分かち合いの時間、「わたしたちの時代のための教え」、そのほかのレッスンや話など、わたしたちが教会で果たす召しに役立つ記事も載っています。

また、地元や教会全体の最新のニュース記事が載っています。地元で関心の高い記事を読むことができます。また、ゴードン・B・ヒンクレー大管長やそのほかの教会指導者の勧告、訪問記事、活動など、教会全体の最近の興味深い出来事についても読むことができます。

会員でない人と福音を分かち合ったり、あまり活発でない会員が証を再発見したりする方法を、記事から見い出すことができます。わたしたちは、教会機関誌を通して主の御霊が生活に影響を及ぼしていることを示す証と手紙を、世界中の人から受け取っています。□



31か国語で印刷されている機関誌に加えて、大管長会と家庭訪問のメッセージは、現在、機関誌掲載の書式ではないが、32か国語で印刷されている。

アルバニア語
アラビア語
アルメニア語(東部)
ビスマラ語
ブライユ点字(英語)
カンボジア語
クロアチア語
エストニア語
ギリシャ語
ハイチ語
ヒリガイノン語
フモン語
イロカノ語
コシャエ語
ラオス語
ラトビア語
リトアニア語
マルタ語
マーシャル語
モンゴル語
モツ語
新メラネシア語
ニウエー語
ポンペイ語
ラロトンガ語
セルビア語
スロバキア語
スロベニア語
タヒチ語
トラック語
トルコ語
ワライ語



黄金の質問

パット・メイヤーズ

絵/ティリオン・マーシュ

高校で人気のあるグループに入っていなかったわたしは、友達の数もみんなほど多くありませんでした。とても内気で独りであることがほとんどでした。いわゆる「苦しいほどの恥ずかしがり屋」だったのです。実際、内気であることをつらく思っていました。

ある日、歴史の授業で席に着いていると、もう一人の内気な女の子がわたしの後ろに座りました。確かに彼女とは前に話をしたことがあったのですが、彼女がどういう人か、よくは知りませんでした。

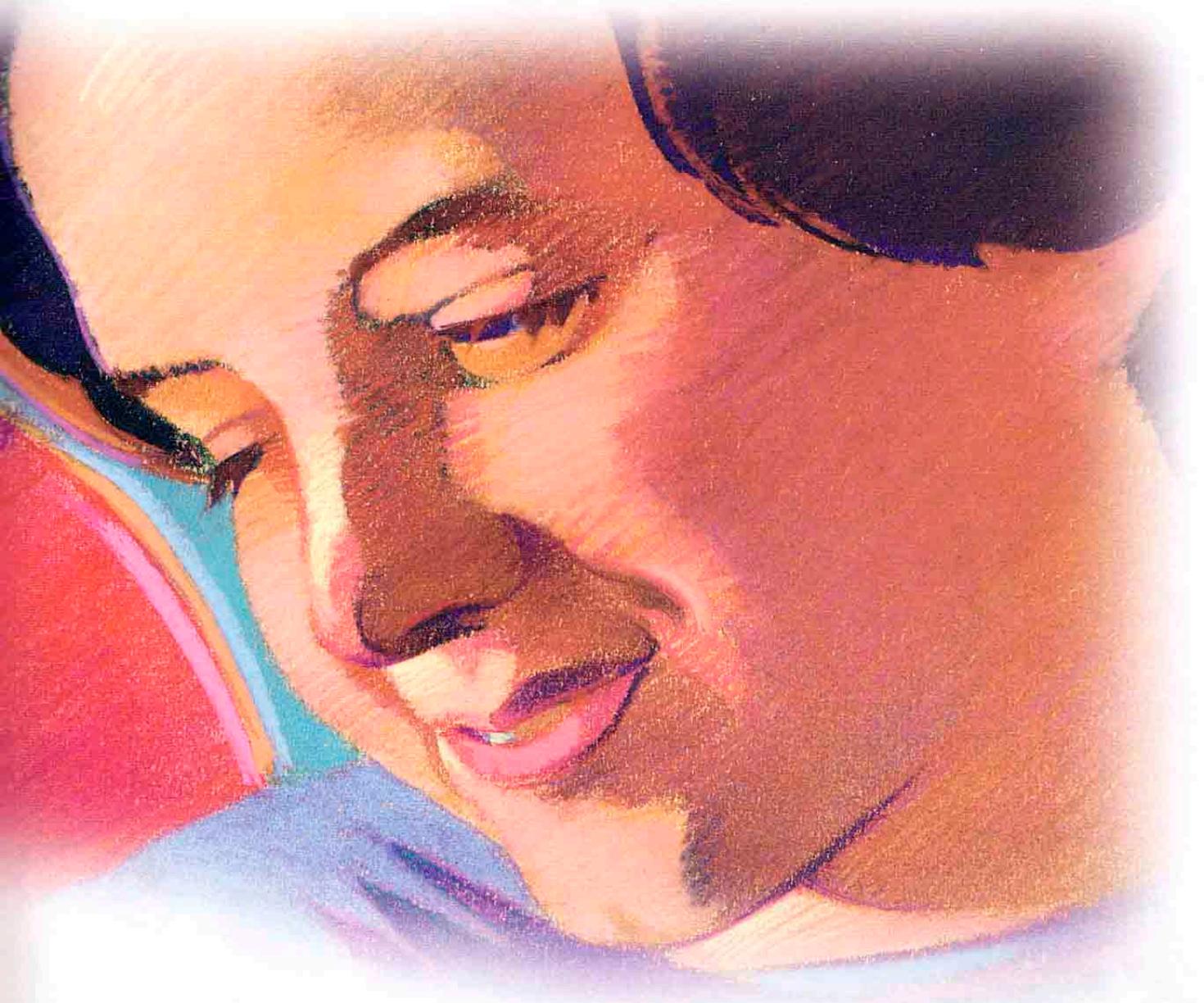
彼女が机に本を置いたとき、ノートがわたしのわきに

落ちました。ノートを拾おうと体をひねると、表紙に「セミナリー —— 末日聖徒イエス・キリスト教会」と書いてあるのが見えました。かがんで拾い、彼女に渡すとき恐る恐る聞いてみました。「あの、教会に行ってるの?」

それを聞くと、彼女は戸惑った表情で、「ええ、行ってるわ」と答えました。

わたしはノートの表紙を指差して、「末日聖徒イエス・キリスト教会って書いてあるから。それで、あなたが教会に行ってるのかなって。」

「ええ、そうよ。」彼女はにっこりして言いました。そ



して、大きく息を吸い込むと、「モルモン教会について何か知ってる？」と聞いてきました。

わたしは正直に「あまり知らない」と答えました。

彼女はもう一度大きく息をして、尋ねました。「教会のこと、もっと知りたいと思う？」

「ええ、知りたいわ。」わたしはためらうことなく答えました。

その途端、彼女はびっくりして口を大きく開けました。でもきらきらと輝くその目から、彼女がほっとしたのは明らかでした。このとき初めて、彼女の名前がイボンヌ・アンダーソンであることを知りました。こうしてわたしたちは友達になりました。間もなく、わたしの最初

の宣教師とのレッスンの約束を、二人で作りました。そしてわたしがバプテスマを受けるとき、イボンヌはそこにいてくれました。

わたしには分かっています。ノートが落ちたのは偶然ではなかったことを。あのノートを見てわたしがした質問は黄金の質問でした。内気な一人の女の子がもう一人の女の子に「もっと知りたいと思う？」と言うきっかけを作ってくれたのです。

あの日、歴史の授業で一つのきずながたちまちにして生まれました。二つの黄金の質問のおかげで、二人の内気な少女は永遠の友達になったのです。□

東 ヨー

における

七十人

デニス・B・ノイエンシュバンダー

写真/クレイグ・ダイヤモンド。天使モロナイ像の写真/リチャード・M・ロムニー。



全世界に福音を宣言する業には、神の御心による将来が待ち受けています。預言者たちは長きにわたって、主の言葉はすべての国々を貫き、もろもろの部族、国語の民、民族に宣べ伝えられると教えてきました。アブラハムは「地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう」という約束を受けました（創世22：18、下線付加）。ニーファイは「小羊の教会の人々〔が〕……地の全面にいる」のを見ました（1ニーファイ14：12）。そして主御自身もこう宣言されました。「〔わたし〕の声はすべての人に及び、逃れる者は一人もない。目として見えないものはなく、耳として聞かないものはなく、心として貫かれないものもない。」（教義と聖約1：2）

ここ20年間の東ヨーロッパ諸国における福音伝道の働きは、上記の預言や他の同様の預言が成就したことをはっきりと証しています。しかし、それらの預言が成就するまでには、長い年月にわたる備えと、東ヨーロッパの政治的環境の变革を待た

なければなりません。そして、そのどちらも教会自体の備えの時間なくしては起こり得ないことでした。その備えと変革にかかわる幾つかの出来事について、わたし自身の個人的な考えを述べてみたいと思います。1975年から1991年にかけて、わたしは家族とともにしばらくの間ヨーロッパに住み、最初は教会の家族歴史マイクロフィルム事業に携わり、次に伝道部長、そしてその後は現在に至るまで中央幹部としての任を受けて働いてきました。

ヨーロッパにおける変革

第二次世界大戦後、東ヨーロッパに住む多くの人々は、思想、政治、宗教上の表現の自由を強く求めました。しかし一党独裁による支配体制はそのような表現を困難なものとし、結果的に非常に危険な政治的対立をもたらしました。ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビアに住む人々は、好むと好まざるとにかかわらず、これらの対立のただ中にさらされてきました。そのような体制に対する異議が非常に顕著な形で表れたのが、1956年のハンガ



ロ ツ パ

福音の確立

リーの事件、そして1968年のプラハでの大規模な抗議デモでした。ポーランドにおける1956年、1970年、1976年の労働者の抵抗運動は、最終的に1980年12月の自主管理労組「連帯」の結成という結果を見るに至りました。

このような政治的抵抗の表現が、ハンガリーでは1989年に最高潮に達しました。1989年5月1日、ハンガリー政府はオーストリアとの国境の鉄条網と監視塔の撤去を始め、ドイツ民主共和国（東ドイツ）の市民がハンガリー国境からオーストリアへ出国することを許可しました。そして、9月までに10万人以上の東ドイツ市民が西ヨーロッパへ流出したのです。

そのとき、わたしは家族とともにオーストリアのウィーンに住んでいました。テレビは毎晩のように、オーストリアへ越境して来た東ドイツ市民を歓迎する大変な騒ぎの様子を伝えていました。このとき東ドイツの市

民とともに、ハンガリーの市民もオーストリアへ流れ込んで来ました。ウィーンの街の内外の道路は、今や自由に旅行ができるようになったハンガリー人であふれていました。彼らの多くにとって、オーストリアを見るのは初めての経験でした。そして、それが済むと彼らはまたハンガリーへ戻って行きました。中には政治犯保護法に基づいてオーストリアに滞在し続ける人々もいました。また、ハンガリーでは手に入らない様々な機器類の買いつけに来る人々もいました。洗濯機や冷蔵庫などの電化製品を車の屋根に縛りつけてハンガリーへ戻る人々がたくさん見受けられました。

国と国を隔てる障壁がなくなっていく状況が最も印象的な形で示されたのが、ベルリンの壁そのものの崩壊でした。ベルリンの壁は東西ベルリンを空間的に隔てるだ

下——東ヨーロッパにおける教会への認知度の高まりを典型的に示したモルモンタバナクル合唱団。1991年6月のツアー中、モスクワの赤の広場にて。左ページ、上——ウクライナ出身のバレリー・ペルチコ作の天使モロナイ像は、かつて宗教の自由を否定されていた国々への福音の伝道を告げ知らせているかのようである。





写真 / 末日聖徒教会記録保管庫の厚意により掲載

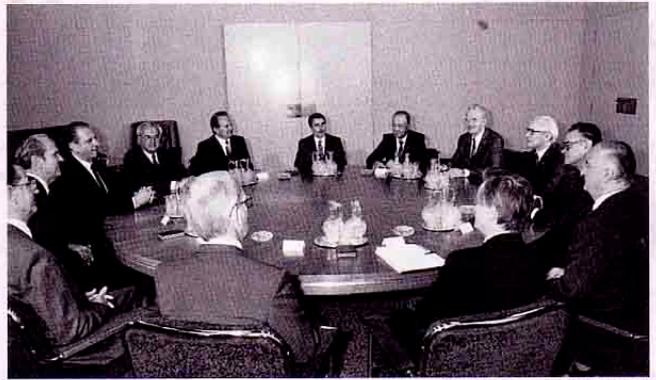


写真 / 末日聖徒教会記録保管庫の厚意により掲載

けのものでしたが、それは東ヨーロッパ諸国の政治・経済体制の閉鎖性を示す象徴的な存在でした。1989年11月9日夜から10日にかけての国境の開放は、東ヨーロッパの新しい時代の到来を象徴するものでした。

東ヨーロッパのほかの国々でも、新しい時代が始まっていました。11月にベルリンの壁が開放されてからわずか2週間後に、大量のチェコ人とスロバキア人がウィーンにやって来ました。チェコスロバキアから来る何百台ものバスのために、市街地から離れた所に特別に駐車場が設けられました。そして、ウィーン全体がお祭り気分になり沸き返りました。多くの商店のウィンドーにはハンガリー語とチェコ語の商札が現れました。

このような現象が続いていく中で、東ヨーロッパ全域の人々が、西側のビジネス界の人々との接触とは言わなくても、テレビ、新聞、ニュース雑誌などに触れる機会が増えていきました。これらの接触を通して得た希望は、抑えることのできない変化への欲求と確信を人々の心の中にもたらしました。東と西に分断されていた政治的状况が根本的に変化し始めました。

この一連の変化を引き起こす重要な火つけ役となったのは、モスクワのソビエト連邦政府そのものでした。1987年にミハイル・ゴルバチョフはグラスノスチ（情報公開）とペレストロイカ（立て直し）の政策の実施に取りかかりました。グラスノスチとペレストロイカという言葉には、長年にわたって東ヨーロッパの人々の中に育ちつつあった考え方の変化が反映されています。重要なのは、この考え方の変化が、信仰の自由を含めて個人の自由を求める大衆の願望に対して共感を深め始めていた政府の役人の中に起きていたということです。

教会の備えの時

1989年の数々の政治的変革が起きるまでには、長い年月を待つ必要がありました。それは、福音がこれらの

地域に伝えられるという変化についても言えることでした。この教会は東ヨーロッパにおいてもかなり以前から活動していました。初期の時代には、様々に異なる政治体制の中で、宣教師たちは東ヨーロッパ諸国でかなりの働きをなし、中央幹部や、ビジネス・学問・芸術などの分野でこの地域と行き来のあった人々が、頻りに地元の指導者たちとの接触を図っていました。しかし、教会の活動が公式に認可されていなかったために、改宗者数は決して芳しいものではありませんでした。ドイツ民主共和国を特別な例外として、1975年当時の東ヨーロッパにおける教会の活動はほとんど行われていませんでした。

チェコスロバキアにはわずかながら忠実な教員が残っていました。現在のポーランド領内と元のソ連領内では、以前は多くの宣教師の働きによってかなりの成功を取っていました。改宗者のほとんどはドイツ系の住民でした。しかし1970年代中ごろまでに、この地域の会員のほとんどは世界したり、西ドイツへ移住したりしていました。ハンガリー東部とルーマニア西部の地域では、昔の伝道活動による改宗者で教会にとどまり続けた人は、ごくわずかしかなかった。

この困難な時代を戦い抜いた代表的な会員が、ポーランドのマリアヌ・グローニア姉妹です。第二次世界大戦中、彼女は夫とともにナチスの占領に対する地下抵抗運動に参加しましたが、捕らえられ、夫と子供を殺害されてしまいました。彼女は生き残りましたが、過酷な拷問によって、手首と足首を痛めつけられていました。手首と足首はとりあえず治りはしたものの、医師の手当てを受けられなかったために、体を自由に動かすことができなくなってしまいました。歩行が困難となり、隣人たちの助けに頼らざるを得ませんでした。

彼女は1958年に末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となりましたが、その後ではかの教会の代表者たちから、もしこの教会の会員であることをやめるなら、残る生涯



左から——ドイツ・フライベルク神殿の奉献，1985年6月；ドイツ民主共和国への宣教師入国の承認を受ける教会指導者（トーマス・S・モンソン副管長，ラッセル・M・ネルソン長老を含む；その1年1か月後のベルリンの壁の崩壊；フライベルク神殿に参入するアルメニアの教会員。背景——ベルリンの壁。

その生活の面倒を見ると告げられました。1981年に彼女を訪ねたとき、わたしと同行のマシュー・チムプロノビッチ兄弟の顔を見詰めて、彼女はこう言いました。「兄弟たち、わたしは絶対に自分の信仰を捨てるようなことはしません。そのことを分かってください。」彼女は困難な状況の中に置かれていたために、教会との接触を持っていませんでしたが、主との接触は保ち続けていたのです。

主も主の教会も、彼女や彼女と同じような境遇の人々を決して忘れたことはありません。主も教会も、静かに、また忍耐をもって、教会の十分な力が再び東ヨーロッパへ注がれるのを待ち、そのための備えをしていたのです。

友好的な関係を築く

主の使節として最も効果的な働きをしたものの一つに数えられるのが、教会のマイクロフィルム事業でした。1957年にハンガリー政府は様々な記録の保存に関して、



写真／末日聖徒教会記録保管庫の厚意により掲載

系図部（現在の家族歴史部）に接触を図ってきました。²その後数年のうちに、ハンガリーの先例に倣^{なら}って、ポーランドも同じ件で教会に接触を図ってきました。そして、当時ヨーロッパ伝道部の部長の任にあったアルビン・R・ダイヤー長老によって1962年からその交渉が開始されました。³このマイクロフィルム事業を通して、教会は数多くの有力な友人を得ることができました。そして、彼らは教会がその助けを必要とするときに、貴重な支持者となってくれたのです。

マイクロフィルム事業がこのように効果的な働きをしたのは、これを通して教会員と鉄のカーテンの向こうの心の広い人々の間に友情を深める機会が生まれたことに一つの原因があります。わたしは1975年に公文書関連の円卓会議に出席するためにウクライナのキエフを訪れました。キエフ市外の会場で開かれた社交行事の後で、参加者たちは1台のバスで、キエフまでの長い道のりを戻りました。会議で通訳を務めた人物がわたしの席の隣に座りました。時間がだいぶん遅かったために、間もなくほとんどの人が眠りに就きました。そのとき、隣の席の通訳者がわたしの方を向いて、わたしがモルモンなのかどうかと尋ねてきました。

彼の質問にわたしは驚きました。1975年の東ヨーロッパで、この教会のことを知り、そのような質問をする勇氣を持っている人がいるというのは、驚きに値することでした。わたしは彼になぜそのような質問をするのかと聞き返しました。話を聞くと、彼は以前に、ある会議で、一人の教会員に会ったことがあるということでした。わたしを見ていて、前に会ったその人物のことを思い出したというのです。その後の幾晩か、わたしは彼と有益な話をすることができました。

わたしは彼が会ったというその教会員が一体だれなのかいまだに分かりません。しかし、その人の模範がこの通訳者に忘れ難い印象を残したことは確かな事実でし

た。教会員が模範の力を通して、教会が正式に確立される以前に、このようにして福音を伝えているのです。

ほかにも、専門的な分野での援助を通して、個人的な接触をした教会員たちがいます。その中でも特に重要な働きをしたのが、教会の法務顧問の人々でした。東ヨーロッパの政治的な激変は、法律の分野において危機的な状況を生み出しました。各国政府は現行法の解釈や新たな法案の作成などにおいて、外部の援助を必要としました。

そのような過渡期に、教会が提供した法務面での援助には非常に大きなものがあります。

また、東ヨーロッパでの奉仕に召された夫婦宣教師たちの貢献にも、計り知れない価値があります。夫婦宣教師たちの働きは、効果的であるばかりでなく、多様性に富んでいました。

ロシアの辺境地の収容所における人道的救援活動からルーマニアでの医療面での訓練、また教会教育部の様々なプログラムの導入から教会発行資料の翻訳に至るまで、教会が東ヨーロッパで行ってきた偉大な働きは、夫婦宣教師たちの活動なくして、何一つ達成できなかったことでしょう。彼らは多くの人々と友好的な関係を築き、様々な体験をしました。後にそれらの体験は、計り知れない貴重な財産となりました。

しかし、夫婦宣教師たちが困難な状況の中で開拓者として示した模範と不動の信仰をたたえることほど、彼らに対する最高の賛辞としてふさわしいものはほかにありません。1970年代の中ごろと1980年代初頭、東ヨーロッパにおいて宗教的な活動をするのは、非常に危険なことでした。夫婦宣教師たちは時々疑いの目を向けられたり、嫌がらせを受けたりもしました。夫婦宣教師の多くは現地の言葉を話すことができませんでした。ですから、食料がなくなったり、電気、燃料、水の供給がなくなったりすればどうなるかということは、彼ら自身よく理解していました。それでも彼らは、自分たちよりもそれらのものを必要としている人々に惜しみなく与えたのでした。

左と下——1991年にブルガリア、チェコスロバキア、ドイツ、ユーゴスラビアを訪れたブリガム・ヤング大学の「ラマナイトジェネレーション」の一行。ほかの末日聖徒の公演グループと同様、この若人たちも多くの友人をつくった。





1995年9月、教会主催により、ロシア人マイクロフィルムオペレーターのためのトレーニングセミナーがペトロザボーツクで開かれた。このセミナーの中で参加者たちはキジ島の近くにあるこの教会を訪ねた。マイクロフィルム事業は東ヨーロッパにおいて、教会のために多くの門戸を開く役割を果たした。

夫婦宣教師たちは「教える人」でもありました。彼らは機会があれば、言葉によって福音の原則を教えました。また彼らはしばしば、改宗して間もない経験の不十分な教会員たちに、教会の運営について貴重な指導を与えました。しかし、彼らが与えた最も重要な教えは、模範による教えでした。将来に対する彼らの確信はそのまま人々に伝わり、お互いをいたわるその夫婦愛は、教会員たちの心の中にいつまでも残る模範となりました。夫婦宣教師の示した模範が、東ヨーロッパの末日聖徒の生活の中に受け継がれ、さらに彼らの献身によってほかの人々に遺産として受け継がれていく日がやがて訪れるでしょう。

世の人々に対する教会のすばらしい使節の中には、公演という形で自分たちのタレントを発揮する人々もいました。わたしは1991年にブルガリアで経験した一つの出来事をよく覚えています。それはブリガム・ヤング大学の「ラマナイトジェネレーション」の一行がソフィアを訪問したときでした。ブリガム・ヤング大学のシンガーやダンサーが約5,000人の観客を前に、大きな文化ホールで公演をしました。観客の中には大勢の子供たちがいましたが、有力者も数多く顔を見せていました。事実、わたしの隣の席には厚生大臣が座っていました。

「ラマナイトジェネレーション」の得意の演目が終わったときに、子供たちがステージに駆け上がりました。それは、出演者たちへの愛の自然な表れでした。子供たちに混じって厚生大臣の姿もありました。彼はわたしが立ち上がるよりも先に席を立ててステージに上がったのです。

子供たちが近づいたときに「ラマナイトジェネレーション」

」の若人たちが「神の子です」を歌い始めました。ブルガリアの人々にとってそれは初めて耳にする曲でした。しかし、その歌にはステージを埋め尽くした人々の足を止め、静かに座らせるほどの力がありました。

わたしはこのような数々の経験を通して、御霊の力に国境はないということを強く確信するようになりました。御霊が国境を越え、人々の心に触れるのに、ビザは要らないのです。主は、教会が東ヨーロッパの国々に再び宣教師を派遣できるようになるずっと以前から、この地の人々の間で働いておられたのです。

「主は見込みのなさそうなことでも実現なさる御方です」

これらの国々で実質的に伝道活動が再開されたのは1972年のことでした。この年に教会は、ステーキや伝道部が組織されていない地域の会員のために国際伝道部を設立しました。国際伝道部の責任の一つに、そのような地域における伝道活動の実現の可能性を調査する仕事がありました。東ヨーロッパにおいてこの調査の仕事を忠実に行った中には、グスタフ・サリク、グレン・ワーナー、レニー・ワーナー夫妻、エドウィン・モレル、スペンサー・J・コンディー（現七十人）などの人々がいて、おもにオーストリア以外の地域でその働きをしました。

1980年代中ごろまでに、十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老と七十人のハンス・B・リンガー長老は東ヨーロッパ各国の政府と何度も接触を重ねていました。⁴ それは、当時十二使徒定員会会員だったトーマス・S・モンソン副管長が、1960年代に始めていた予備的な働きを引き継ぐものでした。二人の長老の働きの結果、東ヨーロッパの幾つかの国々における伝道活動はその勢いを増し加えました。

1987年の7月に、わたしは新しく組織されたオーストリア・ウィーン東伝道部を管理するために、ウィーンに赴きました。この伝道部は8組の夫婦宣教師と6人の長老を含む34人の宣教師で活動を開始しました。そのうちの22人は東ヨーロッパで働きました。東ヨーロッパ全域で起きていた政治的変革と幾度かの使徒の訪問によってかなりのことが達成できるという見込みがなされていました。しかし新任の伝道部長であったわたしには、実際の伝道活動をどのように進めたらよいのか確信の持てない部分がありました。

わたしが着任して間もなく、ラッセル・M・ネルソン

長老がウィーンを訪問しました。そのときわたしは、中央幹部の皆さんに何を期待されているのかを尋ねてみました。当時としてはあまり見込みのなさそうに感じられた伝道活動にあえて挑むべきなのかと質問しました。

すると、ネルソン長老はわたしの両肩に手をおいて、こう言いました。「主は見込みのなさそうなことでも実現なさる御方です。不可能への挑戦を期待しておられるのです。」

わたしはそれを聞いて、かなりの結果を出せるのではないかと思いました。わたしたちは伝道の務めを果たしていく中で、福音には東ヨーロッパの人々の心の中に、明るくすばらしいものをもたらせる何かがある、と気づきました。神殿と家族のきずなについての教え、また福音がもたらす希望、人格の向上、人は平生の自分以上の力を発揮することができるという教えなど、福音のこれらの要素には、どれを取っても人々の心を動かす大きな力があります。特に唯物主義者の社会の中で孤独な生き方をしてきた若い人々は、唯物主義は幸福をもたらさないということを直感的に理解しているようです。彼らは霊的な食物を切望しているのです。

わたしは1月のある寒い日に、ブルガリアの幼稚園の小さな部屋で開かれた支部の集会に出席したことがあります。集会はすでに始まっていました。わたしたちがその集会所に着くと、男性の会員たちが全員、雪の戸外で円陣を組んで立っている姿が見えました。わたしは「こんな所で何をしていますのですか」と尋ねました。

すると彼らはこう答えました。「姉妹たちと子供たちが建物の中で集会をする必要があるものですから、わたしたちはここで神権会を開いているのです。」

教会に加入する東ヨーロッパの人々は、霊的な感受性が強い人々です。彼らは福音を愛し、教会を通して得られる一体感を愛しています。そして、教会員同士が互い

宣教師と改宗者たち——右ページ、左——ハンガリー、ペーチュのシェベステン・マチルドとシェベステン・ラヨシュ。右上——リチャード・ウィンダー伝道部長とバーバラ夫人、二人の宣教師、チェコスロバキア、プラハ、1990年。右中——ドイツ民主共和国に派遣された専任宣教師の最初のグループ、1989年3月30日の東ベルリン着任直後。ドイツ・ドレスデン伝道部のボルフガング・パウル部長（後列左）、ドイツ・ライプチヒステークのマンフレッド・シュッツステーク会長（後列右）、東ベルリンワードのハンス・シュルツ兄弟と姉妹（前列左）。右下——最初のロシア人宣教師アントン・スクリプコ（左）とホームティーチングの同僚がユーリー・テレビーニン（右）を訪問。テレビーニン兄弟は伝道初期のロシア人改宗者の一人。下——ラトビアでのバプテスマ。

に愛し合っているのです。

東ヨーロッパで進展を続けるこの教会の伝道活動の中で最も重要な意義を持つ出来事は、ドイツ民主共和国における伝道部の設立でした。1988年10月にモンソン副管長、ネルソン長老、リンガー長老そして地元の神権指導者が数人、エーリヒ・ホーネッカー議長と会談し、ドイツ民主共和国内における宣教師の伝道活動について承認を求め、さらに地元から召される宣教師が世界のどの地域でも伝道活動に携われるように承認してほしいと申請しました。

この会見の冒頭にホーネッカー議長がこう言いました。「わたしたちは皆さんの教会の方々が、労働を重んじていることを承知しています。実際の働きでそれを証明していらっしゃいます。また家族を大切にいらっしゃることも心得ています。皆さんの生活の中にそれが示されています。それに、どこの国においても善き市民



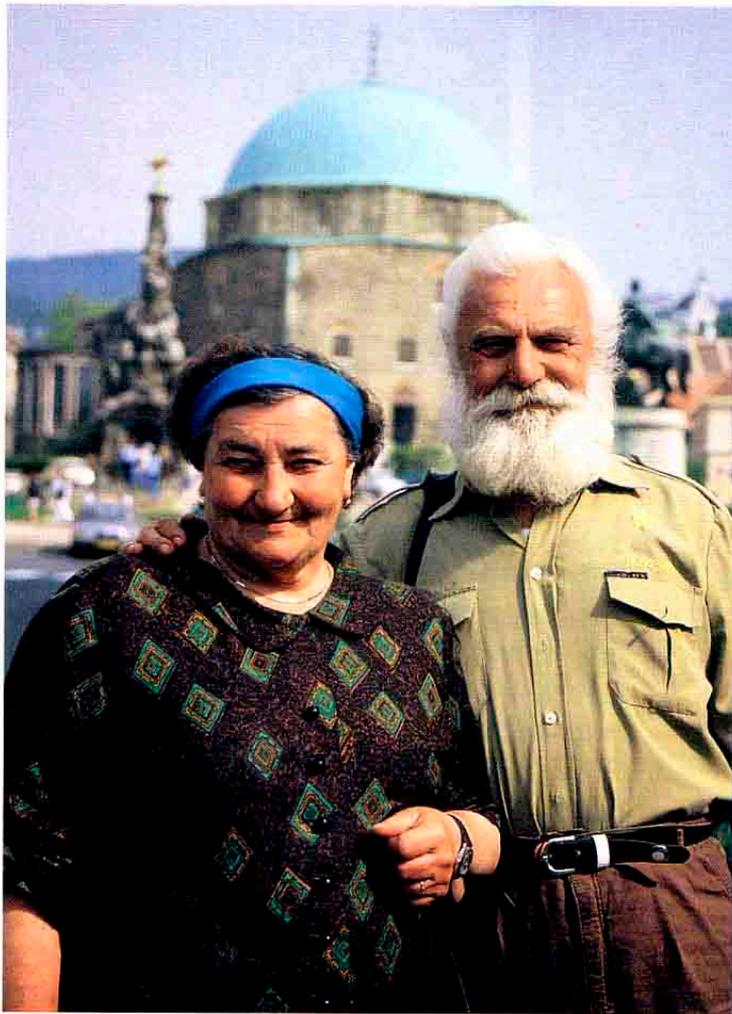


写真 / フライアン・K・ケリー



写真 / J・M・ヘスロップ



写真 / ホルフガング・パウルの厚意により掲載



写真 / 未日聖徒教会記録保管庫の厚意により掲載

であることを、よく観察して知っています。どうぞ自由に発言して、お望みのことを聞かせてください。」

モンソン副管長の申し出は簡潔直截で、効果的でした。承認がなされ、1989年3月30日には50年の空白をおいて、宣教師の第一陣が東ドイツに入国し、福音の伝道を始めました。それから2か月後には、ドイツ民主共和国から召された最初の宣教師が国外での伝道に旅立ちました。⁵

1989年11月にベルリンの壁が開放されたときには、教会はすでに東ヨーロッパにおいて確固たる基礎を築いて

いました。東ヨーロッパとギリシャで当時54人の宣教師が働いていました。またそのころ、教会はすでにポーランド(1977年5月)、ユーゴスラビア(1985年10月)、ハンガリー(1988年6月)でも正式な承認を得ていました。ワルシャワでは礼拝堂の建設が始まり、ブタペストでも建物が購入され、奉献されていました。

1989年の10月には、発展中のロシア北部とバルト諸国の地域の管轄が、オーストリア・ウィーン東伝道部からフィンランド・ヘルシンキ伝道部へ移されました。この





写真／末日聖徒教会記録保管庫の厚息により掲載



写真／マービン・K・ガードナー



写真／マービン・K・ガードナー

左——ポーランド、ワルシャワのザクセンガーデンズに立つマシュー・ツィンブルノビッチ、スペンサー・W・キンボール大管長と妻カミラ・キンボール姉妹、マリオン・ツィンブルノビッチとフリデリク・チェルピンスキー。1977年8月24日に、この近くでキンボール大管長がポーランドを福音伝道の地として奉獻。マシューとマリオンは1977年から1979年にかけて、ポーランドで夫婦宣教師として奉仕した。フリデリクは1977年5月に、ポーランド政府が教会の活動を正式に認可した文書に署名した。中央——ウクライナ、キエフの忠実な教会員、エブジニア姉妹。右——ウクライナにおけるセミナーとインスティテュートの卒業の日の生徒たち、1996年。

歴史に残る新たな展開によって、ロシア、ウクライナ、ブルガリア、ルーマニアに対していっそうの関心が向けられるようになりました。そして1989年末の時点では、これらすべての国で宣教師が伝道活動を進めている状態にまでなっていたのです。

そして間もなく、東ヨーロッパのほかの国々も同じような状況になりました。1990年3月1日には、チェコスロバキアが教会を承認し、宣教師たちが3月2日再びこの国に入り、40年以上にわたってその日が来るように祈り求めていた教会員たちの温かい歓迎を受けました。

1990年7月には、ポーランドのワルシャワ、チェコスロバキアのプラハ、ハンガリーのブタペスト、ギリシャのアテネの5か所に新しい伝道部が設立されました。オーストリア・ウィーン東伝道部の管轄下にあったモスクワとヘルシンキ伝道部に属していたレニングラードが一つになってヘルシンキ東伝道部が組織されました。そして1991年7月までに、ブルガリア、ウクライナ、ロシアにも伝道部が組織されたのです。

将来への明るい展望

この時期の東ヨーロッパの教会で見られた最も重要な出来事は、ドイツ民主共和国における神殿の奉獻でした。ドイツ民主共和国の政府は、1978年の時点で、スイスの神殿に参入するために出国する末日聖徒のビザの期間延長を認めないという方針を取っていました。教会はほかの方策を求めて努力しましたが、東ドイツ政府との交渉は進展を見ませんでした。教会員たちは神の助けを求めて、断食と祈りを始めました。

そのような状況の中のある日、十二使徒定員会のトーマス・S・モンソン長老は東ドイツ政府指導者との会見の席上、相手側から簡単な解決案を提示されました。それは「どうしてこの国に神殿をお建てにならないのですか」というものでした。その後、フライベルクで用地の購入が行われ、1983年には建設工事が始まりました。そして2年後の1985年6月29日に、完成した神殿の奉獻が行われたのです。⁶

神殿から発する力は、ドイツ民主共和国に浸透し、人々の心を和らげ、1980年代の終わりに東ヨーロッパ全域に起こった劇的な変化への道を備える助けになったように思われます。この教会の神殿の影響力は、これらすべての国々に今なお深く根を下ろし続けています。

わたしは東ヨーロッパの国々には明るい未来があると見ています。今はどの国を見てもほとんど例外なく困難な時期のさなかにあります。しかし、非常に良い方向へ向かう動きもあります。これらの様々な変化の中で、教会と聖徒たちは社会的な認知、自信、希望などの面において成長を続けています。

1996年、わたしは任期を終えてアメリカへ帰る前にモスクワへ行き、そこで働きを共にした数多くの人々に別れのあいさつをしました。それは、ロシアの政情がきわめて不安定な時期でした。一人の姉妹が「わたしたちの



写真 / リチャード・ウィンダー、バーバラ・ウィンダーの厚意により掲載



写真 / 末日聖徒教会記録保管庫の厚意により掲載



写真 / モリス・マウアー、アネッタ・マウアーの厚意により掲載

国はこの先一体どうなってしまうのでしょうか」とわたしに尋ねました。

わたしは彼女に、政治家ではないので政治的なことは話せませんが、教会の中央幹部としてなら話すことができます、と答えました。

すると彼女は「それでは、中央幹部として、わたしたちがこれから先どうなるのかを教えてください」と聞き直してきました。

わたしはこう答えました。「主はたとえわずかであっても、忠実な人々がいれば、その人々の信仰のゆえに、国を守り、栄えさせてくださいます。」主は末日聖徒が教えに忠実な生活をするかぎり、教会が揺らいだり、国が減びたりするままにされることはありません。」

これを聞いて独善的と思う人もいるでしょう。しかし、わたしはそう信じています。ロシア、ウクライナあるいはどこかの国の末日聖徒であっても、自分の国を栄えさせたいと思うなら、自分自身が忠実な生活をするのが、最

左——チェコスロバキアの聖徒たち。訪問中の指導者(2列目左から、ルアン・ノイエンシュバンダー姉妹、クレッチ姉妹、コリーン・エイシー姉妹、カーロス・E・エイシー長老、イジー・スネデルフレル兄弟)とともに。中央——アルバニアの孤児院で子供を抱くシャロン・スミス姉妹。スミス姉妹とその夫セリーズ、そして、もう一組の夫婦宣教師がアルバニアに入国した最初の宣教師であった。

右——(左から) デニス・B・ノイエンシュバンダー長老、ダリン・H・オークス長老、ハンス・B・リンガー長老、ブルガリアに派遣された最初の宣教師モリス・マウアー、アネッタ・マウアー夫妻。

も確実な方法です。

トーマス・S・モンソン長老が1968年にドイツ民主共和国でした経験は、そのことをよく物語っています。それはモンソン長老にとって最初の訪問の機会であり、東ドイツ政府との間に意思疎通のパイプがあったわけでもありません。政府の役人でこの教会の使命を理解し、教会が信頼できると考えている人はだれもいませんでした。

モンソン長老はゲルリッツへ赴き、地元の聖徒たちに会いました。彼らがステークに属することによって得られる祝福にあずかれない状況にあることを思い、モンソン長老の心の中には重苦しいものがあり

1991年に教会はソフィアにあるこのコミュニティ文化センターのメインフロアを賃借した。ブルガリアで教会が使用した最初の建物。左から、ブライアン・マイアー長老、ローラ・カレン姉妹、クリス・エルグレン長老。



ました。彼らには祝福師もなく、教会の完全なプログラムを提供するワードもなく、神殿に参入する機会もありませんでした。それでも会場は、主への信仰を持つ人々でいっぱいでした。集った人々に話すためにモンソン長老が立ち上がったとき、聖徒たちに一つの約束をするように御霊がささやきました。その約束とはこうです。「もし皆さんが神の戒めに真実であり、確かであるなら、ほかのあらゆる国々のすべての教会員が受けている祝福をあますことなく受けることができます。」

モンソン長老はその夜、ホテルの部屋で、自分が語った言葉の重大さについて考え、心に重いものを感じていました。モンソン長老はひざまずいて、自分が靈感に促されて語った約束をかなえてくださるようにと、主に祈り求めました。そして祈っているときに、心の中に詩篇の次の言葉が浮かんできました。「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」(詩篇46:10)⁷

それから20年を経た現在、ドイツは民主的な政府の下に統合され、国内に二つの神殿が建ち、聖徒たちは14のステークに組織されています。

わたしたちは現在の不安定な状況を見て憂慮することもあります。主がいつか、義にかなった生活をしてい

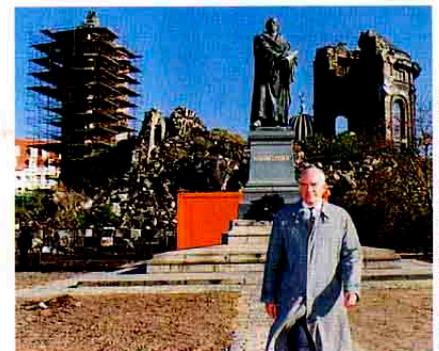
る聖徒たちのためにもろもろの状況を変え、彼らの住む国々にも祝福を下さるという確信を得ることができます。□

注

1. カーリル・メール「チェコの聖徒たちが迎えた輝ける日」、マービン・K・ガードナー「イジー・スネデルフレル、オルガ・スネデルフレル夫妻——チェコの開拓者夫婦の足跡」『聖徒の道』1997年9月号、10-24参照
2. ジェームズ・B・アレン、ジェシー・L・エンブリー、カーリル・B・メール、*Hearts Turned to the Fathers: A History of the Genealogical Society of Utah 1894-1994*『心を父に向けさせ——ユタ系図協会史1894-1994年』255参照
3. アルビン・R・ダイヤー、*The Challenge*『チャレンジ』119-120
4. ラッセル・M・ネルソン「ヨーロッパに展開するドラマ」『聖徒の道』1992年5月号、8-23参照
5. トーマス・S・モンソン「神に感謝をささげん」『聖徒の道』1989年7月号、54-57；トーマス・S・モンソン、*Faith Rewarded*『報いられた信仰』132-135参照
6. 「神に感謝をささげん」54-57、『報いられた信仰』53, 88, 104-106参照
7. 「神に感謝をささげん」54-57；『報いられた信仰』2-7参照。



癒しの象徴、左——ハンガリーのジェールにある教会の礼拝堂内部。下——ドイツ、ドレスデンのギュンター・シュルツ兄弟と、戦争で破壊され、長い間そのままにされていたこの街に立つ新しいビル群。東ヨーロッパの多くの町の場合と異なり、ドレスデンには1855年以来、教会のユニットが存在し続けてきた。



写真/J・M・ヘスロップの厚意により掲載

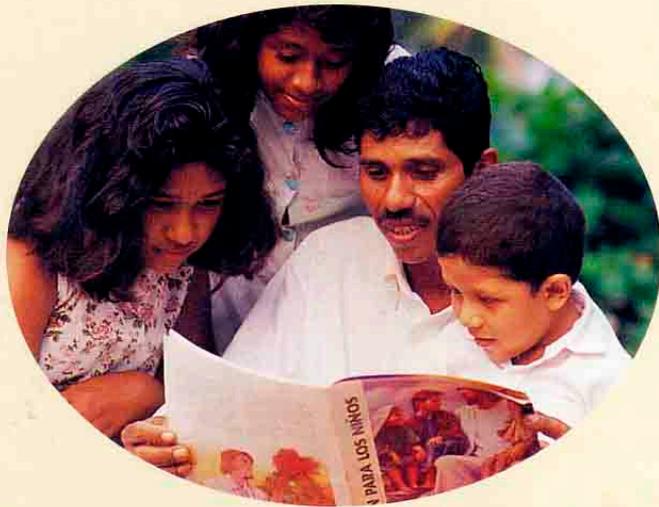
写真/J・M・ヘスロップの厚意により掲載



「ししの穴のダニエル」ブライトン・リビエア（1840-1920年）画

イギリス、リバプールのウォーカー・アート・ギャラリーの許可を得て掲載。

ヘブライ人の若者ダニエルは、捕らえられてバビロンに連れて行かれたが、王から厚遇されることとなった。嫉妬した王子たちのたくらみにより、王はやむなくダニエルにししの穴での死刑を宣告した。しかし、ダニエルは主に従順であったため、危害から救われた。悔い改めた王はこう宣言した。「人は、皆ダニエルの神を、おののき恐れなければならない。彼は生ける神である。」（ダニエル6：26）



「教会機関誌の記事を通して、

生ける預言者と
十二使徒の言葉が
わたしたちの家庭に
定期的に届き、
わたしたちとわたしたちの
家族に靈感と導きを
与えてくれるのです。
世界中の教会員の皆さんに
教会機関誌を購読するよう
強くお勧めします。」

——大管長会。

本誌「全世界のための機関誌」

32ページ参照。



2902989903007

ヒンクレー大管長, ドイツの会員たちを訪れる

ショーン・シュテール



イダ・ウーリック, ユリアーネ・ウーリック, マグダレーナ・ローグナー, ベニヤミン・ウーリックから
花束の歓迎を受けるヒンクレー大管長夫妻。

チャーチ・ニュース

1998年6月5日, フランクフルトのマリオットホテル玄関前に到着した車からゴードン・B・ヒンクレー大管長が降り立った。ウーリック家の兄弟, 6歳のベニヤミンと4歳のユリアーネにとって, 大管長を見分けるのは造作もないことだった。

「二人には大管長がすぐに分かりますよ」と二人の兄弟の母親は言った。「我が家の居間にはヒンクレー大管長の写真が飾ってありますから。大管長は我が家の一員のような人です。」

ウーリック兄弟, 二人のいとこで5歳になるイダ, そして4歳のマグダレーナ・ローグナーは到着したヒンクレー大管長夫妻に花束を贈って歓迎した。

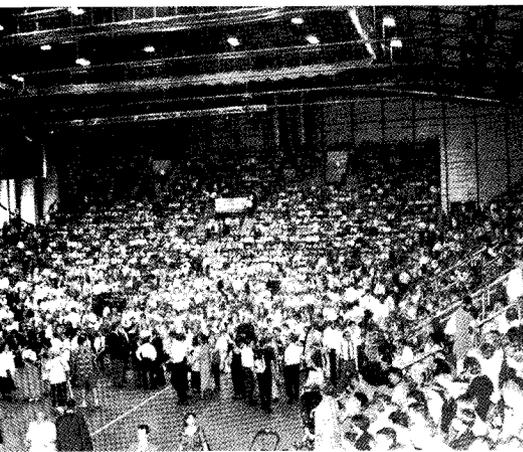
その夜開かれた会員のための集会には8ステークが招待された。立ち席しかない会場ではあったが, ボールスポルトハーレ球技場には8,000人を超える会員たちが詰めかけた。参加者の中にはドイツ南部のオーストリア国境に近いミュンヘンから5台のバスを連ねてやって来た会員たちの顔も見られた。

ほかにはライホルトおよびイングリット・ラーン夫妻のようにマンハイム地域から駆けつけた人たちもいた。「このように預言者の声を聞くことができる機会はわたしたちにとって特別なことです」と二人は述べている。「わたしたちはヒンクレー大管長のお話をうかがうために休日を切り上げてやって来ました。預言者にお会いできるというのに, 遠すぎて来られない場所なんてありませんよ」とラーン兄弟は語る。

200人の大聖歌隊が「救い主, われ信ず」(『賛美歌』72番)を英語とドイツ語で歌った後に, ヒンクレー大管長は壇上に立ち, 若人に訓戒を与えて, このように語った。「知恵を用い, まことを^{けんそん}尽くし, 謙遜に, 清く, そして祈りの気持ちで毎日を過ごしてください。

これらの助言を受け入れて生活するならば, 教会がより大きく, さらに力を増す20年後も, 皆さんは力強く, 忠実で, 清く, 敬虔な民となり, 幸福に暮らしていることでしょう」と大管長は約束した。

ヒンクレー大管長は次に, 子供を持つ親たち



夏の暑い日にもかかわらず、フランクフルト地域の8ステークから8,000人を超える会員たちが、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉を聞こうと、ボールスポルトハール球技場に集まった。

を務めるディーター・F・ウークトドルフ長老はヒンクレー大管長とともに3日間にわたってフランス、スイス、ドイツの会員と宣教師を訪れた旅を振り返って、このように語った。「ヒンクレー大管長夫妻は、今回の訪問によってヨーロッパ中央部の会員たちだけでなく、すべての人々に祝福をもたらし、強めてくれました。お二人のメッセージはわたしたちを新たな段階にまで高めてくれました。

大管長夫妻の訪問によってわたしたちは生活に恵みをもたらされた、と感じています。これらの輝ける日々はヨーロッパにおける教会の確立という意味において新しい出発点となることでしょう。それぞれの集会が終わる度に、



ほとんどの標準聖典をドイツ語に翻訳したイモ・ルーシン兄弟も、ヘルミ夫人とともに集会に出席した。



現在90歳になるマルタ・ボアークト姉妹は、58年前にバプテスマを受けて以来、すべての大管長を目にしている。

わたしたちはシオンにいることを強く感じました。出席した人々は抱き合っ、生ける預言者について証を述べました。多くの人々は自分たちの祈りがこたえられたことを感じて、涙を流していました」とウークトドルフ長老は語った。

ウークトドルフ長老は一人の求道者の言葉を紹介している。「ヒンクレー大管長は、御自分の周囲に善と愛そして若さを放射していました。それは人間の想像をはるかに超えるものでした。大管長が語る時、天からもたらされる平安を感じました。」

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年6月13日付けの記事から掲載。

に向かって、このように語った。「皆さんには子供たちを真理と義のうちに育てるという偉大な機会と責任があります。」

大管長は兄弟たちに向かって、「よい夫、父親、宣教師そして友達であってください」と勧め、姉妹たちには「あなたの家庭に愛と平安の精神を培い、自由な気風をはぐくんでください」と強く求めた。

ヒンクレー大管長に同行したマージョリー・ヒンクレー姉妹も壇上に立った。ヒンクレー姉妹は話の中で夫についてこのように述べた。「わたしは彼の、神の預言者にふさわしからぬ言動や行動を一度も見たり聞いたりしたことがありません。」

七十人でありヨーロッパ西地域会長

キャンディー・ボンバー、ドイツ基地へ帰還

ショーン・D・ステリー

アメリカ空軍退役大佐ゲイル・S・ハルボーソンは、西ベルリンに救援物資を運んでいたところから50年を経た今年5月14日、自らが第二次世界大戦による完全封鎖から救った都市を再訪し、ベルリン空輸50周年記念を祝う約7,000人の人々に迎えられた。

ハルボーソン兄弟は1948年に自分の操縦する爆撃機からハンカチのパラシュートを付けたキャンディーやガムを落としたことから、キャンディー・ボンバーという愛称が付き、1948年から1949年にかけて、ベルリン空輸のシン

ボルとなった。

「大切だったのはキャンディーそのものではありません。自分のことを気にかけてくれる人が存在し、悲嘆に暮れ狂気と化した世の中であってやがてはすべてがうまくいくと、キャンディーを通じて人々が希望を得たことなのです」とハルボーソン兄弟は語っている。

ベルリン空輸に対する賛辞は1年にわたって送られ続けられるが、その初日の5月14日には、ハルボーソン兄弟をはじめとしてアメリカ合衆国大統領ビル・クリントン、ドイツ首相ヘルム

ト・コール、その他の人々が、ベルリンのテンペルホフ空港滑走路で一堂に会した。ハルボーソン兄弟は話し手の一人として、アメリカ合衆国とイギリスの軍人に対し、孤立した都市の上空を27万7,000回以上も飛行し、210万トン以上の救援物資を届けてくれたことへの賛辞を述べた。

「わたしの心には、1948年7月有刺鉄線のさくの所にいた30人の子供たちと2枚のガムのことが浮かんできます。」ハルボーソン兄弟は、50年前初めてキャンディーを落とそうという考えがひ

らめいたときの様子を回想して語った。

当時、空軍中尉だったハルボーン兄弟は西ベルリン、テンベルホフ空港近くの有刺鉄線のさく越しに、30人ほどの子供たちとずっと話をしていた。けれども1時間後にはその場を離れなければならなかった。そうでなければ、自分が駐屯するラインマイン空軍基地へ戻る飛行機に乗り遅れる恐れがあった、と自叙伝『ベルリン・キャンディー・ボンバー』(The Berlin Candy Bomber) に記している。

それでもハルボーン兄弟は、その子供たちのことで頭がいっぱいだった。子供たちのほとんどは、第二次大戦終結から2、3年も経たぬ当時にさえ、キャンディーやガムを口にすることができないでいた。自分のポケットを探ると、ガムがわずかに2枚あるだけだった。30人の子供に対しガムはたったの2枚。これではけんかになるだろう。ハルボーン兄弟は心の中でそう思った。ところが、その2枚のガムを4人の子供たちで分けるのを見たとき、ハルボーン兄弟はとても驚いた。「以前に見たことのない最高の喜びの表れでした。」ハルボーン兄弟はそう語った。子供たちは少しも争わず、ただ包み紙に触れ、香りをかいでみたいと願うだけだった。

その姿を見たハルボーン兄弟は、ガムが30枚あれば、子供たちはどんなに喜ぶだろうか考えた。頭上を飛ぶ飛行機の音を耳にした瞬間、翌日の飛行で機内からガムやチョコレートを落としてみたら、という考えがひらめいた。しかし許可を待っていたら、せっかくの計画が実現できない恐れがあったため、計画は秘密に行うことにした。

飛行機は平均して90秒ごとに着陸していたので、子供たちはどれが自分の乗った飛行機か分かるはずがない。そこでハルボーン兄弟は子供たちに、自分の乗った飛行機の翼を振って合図をするからと言った。また高い所からキャンディーを落とすと、地上でかなり強い衝撃を受けるのが分かっていたので、ハンカチをキャンディーに結びつけてパラシュートのようにすること



ゲイル・S・ハルボーン兄弟の話に耳を傾けるドイツのヘルムート・コール首相(左)とアメリカ合衆国ビル・クリントン大統領。ハルボーン兄弟は席上、1948年から1949年にかけて封鎖中のベルリンにパイロットとして救援物資運搬を行った経験について語った。

にした。そして自分の配給切符と、同じ飛行機の乗員二人の配給切符を使って、30人の子供たちに分けるのに十分な量のキャンディーを用意した。

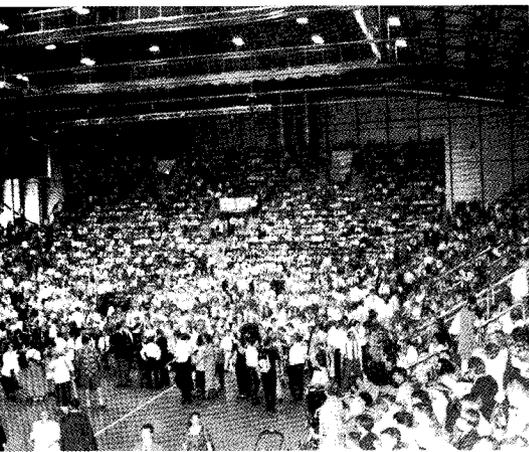
翌日昼間飛行の間にテンベルホフ空港に近づいたとき、ハルボーン兄弟は自分の乗った爆撃機の翼を振り、次に朝顔型の投下装置から小さなキャンディーの包みを出した。子供たちがパラシュートをつかめたかどうかは、飛行機の荷物が降ろされ、離陸の準備が終わるまで、ハルボーン兄弟には分からなかった。さく越しに様子を見ると、大喜びの子供たちが3つの小さなパラシュートを振っている姿があった。

ハルボーン兄弟と乗員たちは、毎週1回6週間にわたってキャンディーを落とし続けた。回を追うごとに子供たちの数は増え、ハルボーン兄弟は落としていることが表ざたにならないように気をつけながら、爆撃機の翼を振って、キャンディーを落とす合図をするのだった。子供たちはハルボーン兄弟を「翼振りのおじちゃん」と呼ぶようになった。

6回目にキャンディーを落として基地に戻った日のこと、ハルボーン兄弟は司令官事務室に呼ばれた。「これを見てみる。」大佐がドイツの新聞『フランクフルター・ツァイトウング』(Frankfurter Zeitung)の記事を指差しながら言った。「昨日のことだが、ベルリンで君が空から落としたキャンディーが、一人の新聞記者の頭を直撃するところだったんだぞ。その記者がこの話をヨーロッパ中に広めてしまっただけね。」

軍の厚意により、キャンディーの投下はもっと頻繁に行われるようになり、「小さな食料供給作戦」と呼ばれるようにまでなった。キャンディー投下のニュースは世界中に知れ渡った。ハルボーン兄弟はアメリカの全国テレビ放送で話をするように招待され、キャンディーとパラシュートの寄付はさらに広まっていった。

現在ハルボーン兄弟姉妹は、ユタ州プロボ、オークヒルズステーキ、オークヒルズ第1ワードに所属している。『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年5月23日付けの記事より掲載。



夏の暑い日にもかかわらず、フランクフルト地域の8ステークから8,000人を超える会員たちが、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉を聞こうと、ボールスポルトハール球技場に集まった。

を務めるディーター・F・ワークトドルフ長老はヒンクレー大管長とともに3日間にわたってフランス、スイス、ドイツの会員と宣教師を訪れた旅を振り返って、このように語った。「ヒンクレー大管長夫妻は、今回の訪問によってヨーロッパ中央部の会員たちだけでなく、すべての人々に祝福をもたらし、強めてくれました。お二人のメッセージはわたしたちを新たな段階にまで高めてくれました。」



現在90歳になるマルタ・ポアークト姉妹は、58年前にバプテスマを受けて以来、すべての大管長を目にしている。

に向かって、このように語った。「皆さんには子供たちを真理と義のうちに育てるという偉大な機会と責任があります。」

大管長は兄弟たちに向かって、「よい夫、父親、宣教師そして友達であってください」と勧め、姉妹たちには「あなたの家庭に愛と平安の精神を培い、自由な気風をはぐくんでください」と強く求めた。

ヒンクレー大管長に同行したマージョリー・ヒンクレー姉妹も壇上に立った。ヒンクレー姉妹は話の中で夫についてこのように述べた。「わたしは彼の、神の預言者にふさわしからぬ言動や行動を一度も見たり聞いたりしたことはありません。」

七十人でありヨーロッパ西地域会長

大管長夫妻の訪問によってわたしたちは生活に恵みをもたらされた、と感じています。これらの輝ける日々はヨーロッパにおける教会の確立という意味において新しい出発点となることでしょう。それぞれの集いが終わる度に、



ほとんどの標準聖典をドイツ語に翻訳したイモ・ルーシン兄弟も、ヘルミ夫人とともに集会に出席した。

わたしたちはシオンにいることを強く感じました。出席した人々は抱き合って、生ける預言者について証を述べました。多くの人々は自分たちの祈りがこたえられたことを感じて、涙を流していました」とワークトドルフ長老は語った。

ワークトドルフ長老は一人の求道者の言葉を紹介している。「ヒンクレー大管長は、御自分の周囲に善と愛そして若さを放射していました。それは人間の想像をはるかに超えるものでした。大管長が語る時、天からもたらされる平安を感じました。」

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、1998年6月13日付けの記事から掲載。

キャンディー・ボンバー、ドイツ基地へ帰還

シヨーン・D・ステリー

アメリカ空軍退役大佐ゲイル・S・ハルパーソンは、西ベルリンに救援物資を運んでいたころから50年を経た今年5月14日、自らが第二次世界大戦による完全封鎖から救った都市を再訪し、ベルリン空輸50周年記念を祝う約7,000人の人々に迎えられた。

ハルパーソン兄弟は1948年に自分の操縦する爆撃機からハンカチのパラシュートを付けたキャンディーやガムを落としたことから、キャンディー・ボンバーという愛称が付き、1948年から1949年にかけて、ベルリン空輸のシン

ボルとなった。

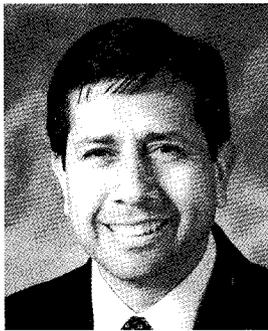
「大切だったのはキャンディーそのものではありません。自分のことを気にかけてくれる人が存在し、悲嘆に暮れ狂気と化した世の中であってやがてはすべてがうまくいくと、キャンディーを通じて人々が希望を得たことなのです」とハルパーソン兄弟は語っている。

ベルリン空輸に対する賛辞は1年にわたって送り続けられるが、その初日の5月14日には、ハルパーソン兄弟をはじめとしてアメリカ合衆国大統領ビル・クリントン、ドイツ首相ヘルム

ト・コール、その他の人々が、ベルリンのテンペルホフ空港滑走路で一堂に会した。ハルパーソン兄弟は話し手の一人として、アメリカ合衆国とイギリスの軍人に対し、孤立した都市の上空を27万7,000回以上も飛行し、210万トン以上の救援物資を届けてくれたことへの賛辞を述べた。

「わたしの心には、1948年7月有刺鉄線のさくの所にいた30人の子供たちと2枚のガムのことが浮かんできます。」ハルパーソン兄弟は、50年前初めてキャンディーを落とそうという考えがひ

中央アメリカの教会



フリオ・E・アルバラド長老



ウィリアム・R・ブラッドフォード長老



E・イスラエル・ペレス長老

末日聖徒イエス・キリスト教会中央アメリカ地域に含まれる7つの国、すなわちベリーズ、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、そしてパナマは、地域として毎年およそ2万5,000人の新会員増加率で成長し続けている。この地域の教会についてよりよく知るために、中央アメリカ地域の会長であり、七十人第一定員会会員であるウィリアム・R・ブラッドフォード長老、地域会長会でそれぞれ第一、第二副会長として働いている地域幹部七十人のフリオ・E・アルバラド、E・イスラエル・ペレスの各長老に話を聞いてみた。

質問—まず初めに各国の状況について教えてくださいいただけますか。

回答—グアテマラの教会は急速な発展を遂げています。会員数は現在中央アメリカではいちばん多く、約17万7,000人です。管理本部は、グアテマラ・シティーに置かれ、この地域で唯一儀式が行われている神殿の近くにあります。神殿に隣接するグアテマラ宣教師訓練センターは、中央アメリカ全域から集まる宣教師に伝道へと旅立つ備えをさせています。同地域で伝道の業に働く2,200人の宣教師のうち、900人は地元中央アメリカの出身です。

ベリーズは、120年以上もの間イギリスの植民地でしたが、1970年代後半に独立を勝ち得ました。約21万1,000人がこの国に住んでいますが、そのうちのほとんどがカリブ海諸島から仕事を

求めてやって来たアフリカ人の子孫です。ベリーズの教会は安定していて、現在会員数約2,300人、ホンジュラス・サンペドロ・スラ伝道部の24人の宣教師が働いています。

エルサルバドルは、地理的に見ると小さな国ですが、ラテンアメリカ諸国では最も人口密度の高い国となっています。この国は、20年あるいはそれ以上にわたり、幾つもの内戦に巻き込まれてきました。しかし、現在ではこれまでにない平和を取り戻しています。主の御業は順調に進み、現在約7万9,000人の会員がエルサルバドルに住んでいます。

中央アメリカのすべての国の中で、教会が最も急速な進歩を遂げている国はホンジュラスです。その発展の多くは、サンペドロ・スラとその周辺に見られます。高温多湿な気候と、平坦な、海岸沿いのこの地域では、国際的な果物の会社が操業し、産業、特に繊維関係の産業が盛んです。地域会長会は神権指導者の訓練に力を注いでいますが、教会員8万4,000人の住むこのホンジュラスでは特にその成果が見られます。

ニカラグアは歴史的に見ると、最近まで共産主義を奉じる独裁者の支配下にありましたが、現在は民主主義の大統領が国家を指導し、国の経済成長は急速に進んでいます。教会のステークはまだ設立されていませんが、約2万6,000人の会員を擁し、堅固な地方部が幾つか組織されています。ニカラグアの会員数は、中央アメリカ諸国におけ

る教会員の平均的な増加率で推移しています。

コスタリカは約70年にわたり、民主的で安定した政府に恵まれ、政治的に問題の多い中央アメリカにあって安全な避け所となっています。コスタリカの生活水準は、中央アメリカでは最も高く、豊富な消費財と堅固な経済的基盤に恵まれています。教会の会員数は約2万9,000人です。

パナマは1999年をもってパナマ運河を管理するようになるため、今その準備を進めています。結果的には、何百というアメリカの軍民、市民が国外に退去し、それは現在でも続いています。そのため地元では、指導力の不足を補うべく努力しています。この点で、教会は成功を収めています。パナマはこれまで何度か政治的な混乱を経験してきました。その一方で教会は着実に前進し、会員数はおよそ3万2,000人になっています。

質問—中央アメリカにおける教会の強さはどういった点にあるのでしょうか。

回答—ホームティーチングや家庭訪問の面で改善が見られます。教会は、しっかりとした神権の基盤の下に組織が機能できるよう、指導者の訓練を推し進めています。目標は、わたしたちの言葉で表現すれば、「牧羊率」を活発な神権者一人当たり10人の水準にすることです。宣教師は将来メルキゼデク神権者になるような人々にバプテスマを施すべく全力を注いでいます。バプ

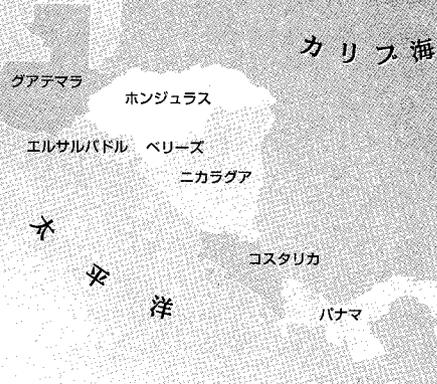
テスマ総数の少なくとも25パーセントを成人男性で占めるという目標を持っているのです。

会員は、就職先を斡旋するためによく働いています。教会は、誠実かつ信頼できる働き手を紹介してくれるということで、中央アメリカでは好評を得ています。中央アメリカの多くの国々で、教会員は政治やビジネスの分野の上層部で働いています。政府や地域社会また他のキリスト教諸派との関係は以前にも増して深くなっています。かつては広範囲にわたり教会に反する宣伝をしていたこの地域の有力な宗派ですら、会員が家族歴史の業のためにもろもろの記録をマイクロフィルムに収めるのを助けてくれます。

大部分の中央アメリカ諸国が比較的平和となっている現在、高速道路を経由し諸国中を旅行できるようになりま

した。グアテマラ・シティー神殿を他の国から訪問する会員の数は増加の一途をたどっています。神殿の宿泊施設は約100人の収容が可能です。宿泊の希望者がかなりの数に上るため、事前に予約をしておかなければなりません。神殿の儀式執行数は過去2年間で約40パーセントの増加を見せています。この状況から、会員が神殿推薦状を受けるため自らをよく備えている様子が分かります。

中央アメリカの改宗者の心は神殿に向いています。会員と専任宣教師は、そのような改宗者が定着することを最優先し、ともに協力しています。最近では、会員と宣教師とが共同で、会員記録の調査を集中的に行いました。教会に活発でない会員に対するより効果



的な奉仕を目標に、何千という時間を費やしてそのような会員を探し、最新の記録を作成したのです。このような努力と成長はすべて、中央アメリカの教会が福音のより深い浸透を目指していることの証です。中央アメリカの教会は、さらなる成長を遂げるのみならず、より高い水準での力を身に付け自らをささげる準備が整っているのです。□

日曜学校の誕生を祝う

中央日曜学校会長会

教会の正式な教育組織の中で最も長い歴史を持つ日曜学校。その創立150年記念の年がいよいよ来年に迫ってきました。過去150年の間には技術面で様々な変化がありました。日曜学校の目的は変わっていません。イエス・キリストの福音を教え、個人と家族を強めることです。

1849年12月9日、リチャード・バラントインがソルトレーク・シティーにある自宅に子供たちを集め、聖典を用いて教育を行いました。彼はその目的について、「子供たちが集まって……神の慈しみや、イエス・キリストが授けてくださった真実の救いの福音を学べる学校にすること。」と述べています。(Encyclopedia of Mormonism 『モルモニズム百科事典』3:1424)

これを皮切りに、日曜学校は急速に発展しました。そして50年後の1899年、教会全体で日曜学校の重要性を認識するための催しが行われています。そのとき、記念の品物を納めた箱が用意され、

50年後に開かれることになりました。

箱に納められたものの中に、日曜学校指導者からの手紙がありました。こう書かれています。「わたしたちが心から願うのは、……今後50年間にどのような変化が起ころうとも、この偉大な日曜学校の業の目的を一瞬たりとも忘れてはならないということです。それは、イエス・キリストの福音の原則を教え、彼らを立派な末日聖徒にすることです。」(訳注——成人のクラスが日曜学校に加わったのは、1904年。)

1949年、日曜学校創立100年祭の行事の一つとして、別の箱が作られました。末日聖徒の住む世界中の地域の木を組み合わせて作ったものです。日曜学校関係の記念の品が詰まったその箱は、1999年4月に一般に公開されることになっています。また、1998年7月までの間、教会歴史美術館で見ることができます。

日曜学校の大切さ、また優れた教育の重要性は、今も昔も変わりません。聖文を研究し、日曜学校に毎回参加することによって、個人も家族も福音の原則を実践する力を強められるのです。□



最初の日曜学校 アーノルド・フリーバーク画

補助組織の会員の心得 家庭訪問——偉大で神聖な務め

中央扶助協会会長

あるファイヤサイドで、一人の神権指導者が聴衆に向かってこう尋ねました。「人がイエス・キリストの福音に帰依しているかどうかはどのように分かりますか。」

それに続いて様々な話をした後で、彼は次のように結びました。「わたしたちがイエス・キリストについてどのように感じているかを最もよく示すのは、互いへの接し方であるとわたしは信じています。」

真の改心を遂げた人は、他人の幸福を心から望みます。エノスは改心した



家庭訪問をする姉妹たち 写真/マイク・バン・ドレン

後で、「同胞であるニーファイ人の幸いを願う気持ちがわいてきました。それでわたしは、彼らのためにわたしの心のすべてを神に注ぎ出した」と書いています（エノス1：9）。人がイエス・キリストに従う者であるかどうかは、彼らが進んで「各々の必要と入り用に応じて物質的にも霊的にも互いに」分かち合おうとする特質を持っているかどうかで見分けられます（モーサヤ18：29）。

サタンは、わたしたちがこのような助けの手を差し伸べるのを妨げようとするでしょう。彼はわたしたちをお互いから引き離そうとし、人のために使う時間などないという気持ちを起こさせ、わたしたちが自分自身の証を強めたり、人々が証を得ようとするのを助けたりするのを阻止します。家庭訪問はサタンの働きに立ち向かうものです。

扶助協会の指導者は以下の方法で家庭訪問を強めることができます。

●わたしたちはイエス・キリストに従う者として互いに助け合うと決意した

ことを教える。

●祈りをもって割り当てを決め、姉妹一人一人がなぜ自分の訪問先の姉妹に仕えるように召されているかが分かるように助ける。

●姉妹一人一人が、他の人々の生活に影響を与えることができることを理解できるように助ける。

●第1日曜日の集会で家庭訪問について採り上げる。

●批判を避け、愛に満ちた雰囲気^{せうき}で家庭訪問の面接を行う。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように勧告しています。「苦しみや、悩み、孤独、恐れのために、助けを求めている人が、身近なところにい〔ます〕。そのような人々に援助の手を差し伸べて、彼らを引き上げ、飢えている人に食べさせ、真理と正義を切望している人の霊をはぐくむことは、わたしたちに与えられている神聖かつ重大な責任です。」（「援助の手を差し伸べる」『聖徒の道』1997年1月号、99）□

ミーチャルを意義ある活動にする

中央若い女性会長

若い女性の指導者の皆さんは、毎週のミーチャルで何をしようかと迷うことはありませんか。

「謙遜^{けんそん}に主の助けを求めるときに、この業を行うために必要な導きと見識を得ることでしょ。」（『若い女性指導者手引き』2）この勧告は日曜日のレッスンおよびミーチャルの活動の両方に適用されます。

靈感を求めるときに、定例的に毎週、同じ時間に同じ場所で開かれる活動であるミーチャルは、「日曜日に学ん

だ原則を強化するものであり、『成長するわたし』に関連した経験を含むべき』である（『若い女性指導者手引き』8参照）ことを覚えていてください。ミーチャルはまた、手作りの芸術作品を教えたり、健全な音楽、スピーチ、ダンス、文学また美術品の鑑賞をしたりするのによい機会となります。

ミーチャルを準備する際に、若い女性一人一人の必要を、霊の感度を高めて見極めてください。例えば、以下のような筋書きを参考にして、考慮し

てください。

●若い女性の指導者が、聖餐会^{せいさん}での青少年の話は改善の余地があると感じました。クラス会長会はスペシャリストの助けを得て、効果的に話をするのに必要な要素についてのワークショップを開きました。

●最近パプテスマを受けたビーハイブの姉妹が、なかなか活発になれず、友達を必要としています。彼女のアドバイザーは、彼女がダンスが好きだと知り、クラス会長会が彼女に、ク

ラスの他の人たちにダンスの基本を教えてくれるよう呼びかけました。

個人の必要を考慮する際に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が若い女性に対して、次のように語ったことを忘れないでください。「皆さん一人一人の内には神聖な賜物があります。……生まれつき才能もないし、あったとしてもそれを表現する機会に恵まれていないなどと考えるはいけません。」(『内なる光』『聖徒の道』1995年7月号, 108)

指導者としてわたしたちは、この世の「きらびやかなもの」と競うことのないようにする必要があります。わたしたちにはこの世に勝るもの、主の御霊と指導者の若い人々に対する愛があります。この原則を用い、ミューチャ

ルの活動を福音の目的に添ったものにするようにしてください。若い女性の信条を教え、若い女性の家族との交流を深めてください。そして証を強め、指導力を養成し、才能を伸ばすようにしてください。また日曜日のレッスンを強化し、健全な環境の中で友情がはぐくまれるように、さらに楽しい時間となるようにしてください。□



手作り芸術作品——パイを作る若い女性 写真/ロバート・ケイシー

信仰の基

中央初等協会会長会

今後数か月間に、143か国に住む100万人以上の初等協会の子供たちは、聖文への愛を聖餐会の発表で分かち合います。わたしたちは忠実な初等協会の会長会である皆さんに感謝しています。皆さんは1998年度の概要「わたしは聖文が真実であることを知っています」に添った原則を子供たちに教えてきてくださいました。皆さんの個人的な経験や証が助けとなり、子供たちは、聖文をどのように用いて生活を強めるか理解できるようになりました。

霊的に受け入れやすく、とても教えやすいのが子供たちです。初等協会でも働く人は皆、子供たちに対し、彼らの人生を変えるような、不変の方法で影響を与えることができます(教義と聖

約64:33参照)。言うまでもなく、子供たちに福音を教える第一の責任を負っているのは両親です。しかし初等協会は、価値ある支えとなることができま。初等協会の目的は次のようなものです。「子供たちにイエス・キリストの福音を教え、子供たちが福音に従った生活を送れるよう助けることにある。」(『初等協

イエス・キリストと子供たち 絵/デル・パーソン



会に関する神権指導者と補助組織指導者への指示』1) わたしたちは預言者の指示にこたえ、初等協会の子供たちが親切になり、すべての人を敬うようになるのを助けたいと願っています(ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちは主について証する」『聖徒の道』1998年7月号, 5参照)。

初等協会の会長会は各々の神権指導者から、1999年度の概要『主イエス・キリストへの信仰』を受け取ることに

なっています。この概要から1999年度の分かち合いのアイデアを得てください。そうすれば子供たちはイエス・キリストへの信仰を増し、信仰を行いに移せるようになるでしょう。

皆さんの忠実さに対し、そして子供たちにこれらの重要な真理を教える神聖な責任についてご理解いただけることに感謝しています。祈りや聖文の勉強を通して、また福音の原則の実践によって聖霊を受けられるよう自分自身

を備えるならば、御霊の靈感を受けることができるようになります(教義と聖約42:14参照)。自らの証をしばしば子供たちに述べることで、聖霊は皆さんを通して子供たちの思いと心に働きかけ、救い主を愛し、従いたいという望みを子供たちにもたらすことでしよう。この信仰の基によって、わたしたちの子供たちは大いに必要としている平安と強さを得ることができよう。□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 1998年10月

以下は、初等協会の指導者が『聖徒の道』1998年10月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる、「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は、この号の「こどものページ」の6-7ページ「わたしも今すぐ、せんきょうしになれる」を参照する。

1. 子供たちがローマ1:16を暗唱できるように、聖句を何回か繰り返して読む中で、途中で止まり、子供の一人に次に続く言葉や節を言わせる。続けて他の子供に次の言葉や節を言わせ、ほとんどの子供たちに順番が回り、子供たちだけで聖句を言えるようになるまで繰り返す。自分が信じることを人々の前で示したときの経験を分かち合う。人々に模範を示すとき、わたしたちは宣教師になれることを説明する。

2. 監督、あるいは支部長の許可を得て、2, 3人の帰還宣教師を招いて彼らの伝道の経験、特に人々が耳を傾けて、福音のメッセージを受け入れてくれたときに感じた喜びについて話してもらう。また、子供たちが伝道活動を助けるのを目にしたときのことを話してもらう(良い模範を示した、友達を教会や初等協会の活動に誘った、など)。

子供たちに、自分のワード、あるいは支部から伝道に出ている宣教師に短い手紙や絵を書かせる。

3. 子供たちに地球儀や世界地図を見せ、自分たちが住んでいる場所を示す。世界の他の場所に住む天父の子供たちについて、また福音を伝えるために宣教師が召されている幾つかの地域について話す。天父はすべての彼の子供たちにイエス・キリストやその福音について学んでほしいと思っておられ、そのために宣教師が世界中に召されていることを理解させる。子供たちを輪になって座らせる。お手玉を一人の子供に投げて、教会員でない友達に福音についてどんなことを教えてあげたらよいかを言わせる。その子供から他の子供にお手玉を投げさせ、全員に順番が当たるまで続ける。

4. 次の名前を別々の紙に書く。エノク(モーセ7:18-19, 62); ヨナ(ヨナ1-3); アンモン(アルマ17:19; 26:8-13); パウロ(使徒26:1-2, 22-29); アルマ(アルマ8:8-32)。名前を書いた紙を黒板にはり、「これはだれのお話でしょう」のゲームをする。名前を言わずに、それぞれの宣教師についての物語を簡単に話した後で、「これはだれのお話でしょう」

と尋ねる。子供たちに参照聖句を見つけて答えさせる。「イエス・キリストの教会」(『子供の歌集』48)を歌う。子供たちに歌の指揮の仕方を練習させ、伝道に出たり、教会で奉仕したりするときに、歌の指揮をする機会があるかもしれないと話す。

5. 使徒行伝第10章を使って、ペテロとコルネリオの物語の劇をする。子供たちにペテロ、コルネリオ、コルネリオの僕たち、ペテロの友人たち、そして天使の役をそれぞれ割り当てる。簡単な衣装や名札を使い、ナレーターが物語を話す、あるいは読むのに合わせて、子供たちに演じさせる。ペテロがこの経験から何を学んだかを子供たちに尋ねる。ペテロはこのとき初めて、福音はユダヤ人だけでなくすべての人のためにあると理解したことを説明する。わたしたちもまた、福音をすべての人々に伝えるように言われていることを話す。

6. このテーマに関する資料として、「楽園の150年」(『聖徒の道』1995年3月号, こどものページ4-6), 「伝道の種まき」(『聖徒の道』1995年8月号, こどものページ8-11), 「ジェシカと『モルモン書』とロー兄弟」(『聖徒の道』1997年8月号, こどものページ4-6)を参照する。□

特集

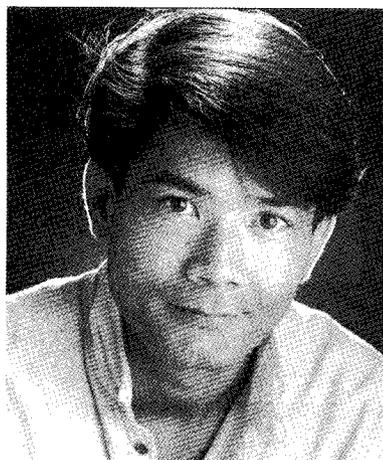
賜物も生かす

芸術を通して福音を分かち合う

300人が訪れた沖縄那覇ステーキ普天間ワード、ハル・川満 ファイヤサイド



6月13日に沖縄那覇ステーキ普天間ワードにおいて、アメリカから15年ぶりに里帰りしたハル・川満と川満正春兄弟とご家族を迎えてのフ



上——川満正春兄弟。

左——沖縄那覇ステーキで行われたファイヤサイドでステージを務める川満ご家族。
左上——沖縄のイメージを色濃く反映した川満兄弟の描くファッション画。

ファイヤサイドが開催されました。川満兄弟はブリガム・ヤング大学のデザイン科を卒業後、アメリカに残りイラストレーターとしての才能を発揮しながら、ファッションデザイナー・脚本・出版・映画・テレビドラマ出演・歌手・ソングライター・モデル・ダンサー・振り付け師・ナレーターその他の多岐にわたる分野で活躍してきました。斬新なアイデアと手法により独自の画風を確立し、専門家の評価も高く、アメリカ国内において数々の賞を獲得しました。

その彼が、自身の家族歴史探求に加えて故郷沖縄の文化と歴史を再確認するため、去年の11月に帰って来ました。

滞在期間を3年に限定し、その間に空手、琉球舞踊、琉球民謡などの伝統文化を学び、将来の芸術活動に生かしたいとのことです。

好子姉妹との間に証・ステイブ(16歳)、愛・オードリー(14歳)、愛希信・シンディー(8歳)、哀行・ダグラス(6歳)の4人の子供たちに恵まれています。

ファイヤサイドではファッション画の展示に加えて歌あり、踊りあり、ファッションショーありと見る者の目を楽しませてくれました。また子供たち4人で結成されたグループ「飛龍インターナショナル」のショーもあり、歌、踊り、テコンドー演武と多彩な才能を披露しました。普天間ワードは教会員、一般の方、テレビ局の取材班など300人以上の来場者でにぎわい、皆がハル・川満の世界を堪能しました。

川満兄弟は、「小さな細い声に聞き従う」とのテーマで話しました。渡米前、生後9か月の証君を抱えての川満家族の苦悩、川満兄弟のお母さんの突然の病气や渡米後のユタ州での貧乏学生生活、言葉の障害を克服してのアメリカでのサクセスストーリー、そして



福音に対する証

……。常に聖霊の小さな声に聞き従って歩んできた川満兄弟の人生は、来場者に大きな感銘を与えました。

川満家族は芸術や歌、踊り、そのほか自分たちに与えられたあらゆる才能を、何のために、どのように使うかをよく知っています。8月中旬から個展を予定する多忙な中でも、伝道につながるならということで開催のファイヤサイドを快諾してくれました。彼らには自らの才能を通じて福音を宣べ伝えたいという強い信仰があります。ファイヤサイド当日、川満兄弟は風邪のため40度の熱がありながら、スタッフに心配させまいと何でもないように約1時間半のステージを務めたと後で聞きました。朝早くのリハーサルから夜10時近くになったテレビ局の取材まで、プロとしての真摯な態度にも圧倒されましたが、それ以上に福音に従って一つとなっている彼らの姿に家族のすばらしさを感じました。彼らの行いの根底にあるのは、福音を基とした生活と家族愛によって世の人々に福音のすばらしさを伝える器になりたいという思いです。会う人々にごく自然にさりりと福音を分かち合う川満家族の態度には学ぶべきものがあります。

このファイヤサイドの様子は地元の沖縄テレビ「気になるおきなわ」で放映されました。実に様々な人たちが彼らを通して福音の力強いメッセージを受けました。川満家族をはじめ多くの時間を割いてボランティアでこのファイヤサイドを支えてくれた多くの兄弟姉妹たちに感謝しています。(レポーター：大城信章 カブスカウト隊長)

賜物と生けす



郡山市でフラダンススクールを主宰する辻 恵子姉妹を通して、ハワイアンミュージック界、フラダンス界でそれぞれ才能を発揮されているダーリーン・アフナ姉妹とオラナ・アイ姉妹から、日本の聖徒たちにメッセージと証が寄せられました。(編集室)

ダーリーン・アフナ姉妹(右) 辻姉妹とともに



祝福は主によって もたらされる

●ダーリーン・アフナ姉妹は、1997年にハワイのナホク・女性ボーカリスト賞(日本で言うレコード大賞)を獲得して一躍脚光を浴び、1998年4月にはニューヨークのカーネギーホールでハワイのトップミュージシャンたちとコンサートを開いた。彼女は数え切れないほどの祝福を数え上げ、これまでのハワイアン歌手としての成功はすべて天父のおかげだと感謝している。

オアフ鳥カネオヘで生まれたわたしは、13歳のときに父の生まれ故郷であるハワイ島ヒロに家族とともに移り住みました。両親はそれぞれ別

の教会に属していましたが、あまり熱心ではありませんでした。わたしはいつも主の愛を強く感じながらも、特定の教会を定めることができず、14歳か15歳のころまで真実の教会を求めて様々な教会を探し歩きました。

あるとき、とある教会の集会で牧師が末日聖徒イエス・キリスト教会をひどく批判しているのを聞いて、真の神の教会はお互いに愛し合い助け合うべきなのにどうして、と疑問を抱くと同時に、批判の対象となったこの教会に興味を持ちました。すぐに教会を探し、当時MIAの活動の一つであった野球試合に誘われるままに参加し、今の夫であるJ・J・アフナに出会いました。

夫はモルモンの音楽を愛する家庭で育ち、小さいころから家族の影響ですでに音楽活動をしていました。夫が21歳、わたしが19歳のときに結婚し、2年後に夫からバプテスマを受け、しばらく一緒に教会に集っていましたが、二人ともお休み会員になってしまいました。

それから13年の間に男の子二人に恵まれましたが、教会から離れてしまったわたしたちの家庭は崩壊寸前でした。夫婦二人とも麻薬というサタンのわなにはまってしまい、このままでいけば子供たちが成長する前に自分たちは肉体的にも精神的にも滅び、すべてを失ってしまうという恐怖に襲われました。そして夫婦でひざまずき、これまでにしたことがない心からの祈りをささげ、主の赦しを請いました。

悔い改めの段階を踏み、教会に戻れ

たときは主の愛を体中で感じ、涙しました。教会に戻ってから1か月後に、10年ぶりで3人目の子供がおなかに入ったことが分かり、喜びは二重になりました。わたしたちはその男の子にパウオレ(ハワイ語で「永遠なる愛」の意)と名付け、教会に戻って1年後にハワイ神殿で5人の家族の結び固めを受けることができました。

音楽活動はお休み会員だった期間もずっと続けていましたが、音楽の世界で認められ成功し始めたのは教会に戻ってからです。1995年に1枚目のアルバムを出し、1996年に出した2枚目のアルバム『クウレイ ポイナオレ』(忘れ難いわたしのレイ)でハワイでとても大きな賞を頂くことができました。愛する家族、才能、音楽界での成功などの祝福はすべて主によらなければ手にすることはできませんでした。

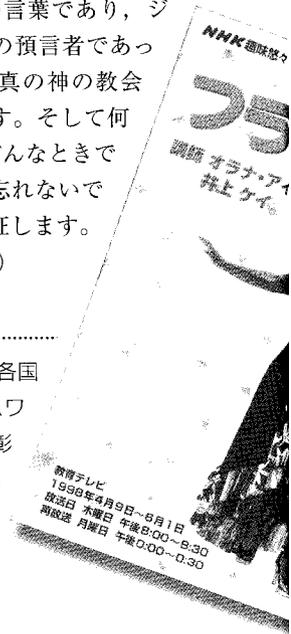
今、夫はワードの長老定員会会長として、わたしは若い女性の第2副会長としての召しを頂いています。主がわたしたちのような弱者でも器として使ってくださることに心から感謝しています。主は確かに生きておられ、『モルモン書』が神の言葉であり、ジョセフ・スミスが神の預言者であったこと、この教会が真の神の教会であることを証します。そして何よりも父なる神が、どんなときでもわたしたちを愛し忘れないでいてくださることを証します。(ダーリーン・アフナ)

全力を尽くして、主に信頼する

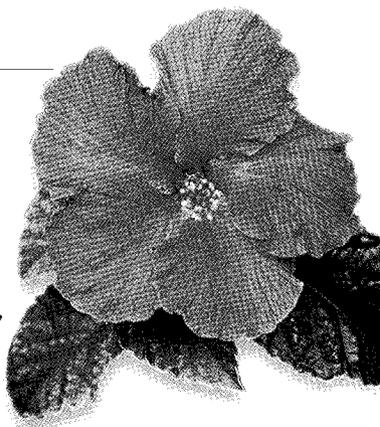
●オラナ・アイ姉妹はハワイ・フラダンス界の第一人者であり、ハワイ最大級のフラ学校「ハラウ・フラ・オラナ」を主

宰する。11年にわたってテレビ放送の司会も務め、子供の医療機関を支援するための番組作りに学校を挙げて貢献してい

る。1996年には世界各国での功績をたたえてハワイ・ホノルル市より表彰を受けた。ハワイ観光局のキャンペーンで来日の経験もあり、



贈り物と生け花



日本とのかかわりは深い。1998年4月から6月にかけて放送されたNHK教育テレビ「NHK趣味悠々・フラダンス入門」の講師を務めた。

わ たしの母、ブロッサム・カリリボニ・クラーク・カイボは、わたしのフラの先生であり、日曜学校の教師でもありました。わたしが幼いころ、彼女は初等協会の会長でしたし、わたしが若い女性の年代になると、MIAの会長をしていました。わたしは彼女にまっすぐで細い道を歩くことを教えられただけでなく、踊っている間はずっと訓練された動きを保つ大切さもはっきりとたたき込まれました。彼女はわたしに奉仕について教えるだけでなく、奉仕を実践する場所へも導いてくれました。慈愛について語るだけでなく、貧しく虐げられた人々、また疲れ切り、踏みつけられた人々を受け入れました。心の中に人々を思いやる気持ちを抱くことによって分かち合うようにと教えてくれました。

幼いころ、わたしたちは誕生日にはいつも自分の年の倍の数の1セント硬貨を初等協会に持って行き、誕生日ケーキの形をした箱に入れることになっていました。そのお金は子供病院を支援するために使われました。世界中からその病院に来る子供たちの治療のために、わたしたちの1セント硬貨が使われました。クリスマスの時期になると、母は子供たちにそれぞれ石けんを一個ずつ初等協会に持って来るように言いました。そして

それを子供病院に贈りました。

わたしはフラそのものだけでなく、その踊りが人々を高めるということも好きでした。フラはハワイの人々がお互いや大地の贈り物をいかに愛するかを教えるとともに、人々を喜ばせ、様々な教訓を与える物語を伝えてくれます。アロハの精神によって人々に接することは、キリストの愛に非常に近いものがあります。

わたしは娘たちにフラを教えるために1975年にケイキ・フラ(子供のフラ)教室を始めました。それは祖母から母に、母からわたしに教えられたものでした。その小さな子供たちの集まりが、今ではハワイで最大のフラの学校の一つになりました。

よく知らない人々はわたしを「ハラウ・フラ・オラナ」の代表と考えますが、家族について触れずにテレビのインタビューに答えるのは難しいことでした。なぜならこのフラの学校はわたしたち家族全員の才能、精力、努力の結晶だからです。最大の協力者である主人のハワードは歌手一家の家庭に育ち、よく家に集まり夜風に乗せてハワイの陽気な歌を歌ったそうです。ハワードがまだ3歳のとき、姉と二人でヒロで行われた大会ですばらしいデュエットを歌ったこともあります。彼が教えた少年たちのほかに、ケイキ・フラ・コンクールで9年連続優勝を遂げたグループはいません。

わたしたちは知事を通じ、4人の大統領、王、また日本の天皇皇后両陛下にお会いしました。子供たちのダンスは軍指導者たちの心を和らげ、全米フットボールリーグ選手の涙を誘いました。トム・セレック、ルチアーノ・ババロッティ、アーノルド・シュワルツネッカー、マライア・キャリーの前でダンスを披露したこともあります。子供たちは焼けつく太陽の下で、どしゃぶ

りの雨の中で、富める人々や健康な人々のために、また病める人々や助けを必要とする人々、貧しい人々、収監中の人々のために踊りました。

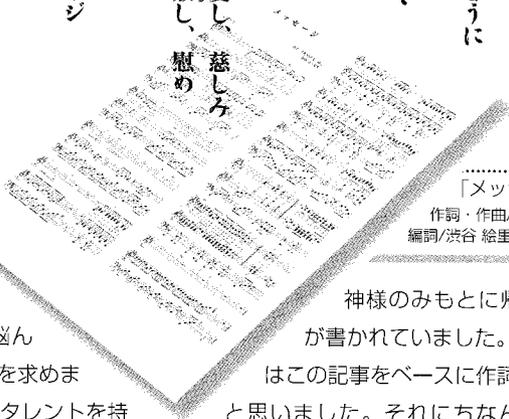
6人の子供に恵まれたわたしたちは彼らに対し、できることをすべて行い、後は主が自分たちの必要を御存じであると信頼することの大切さを教えてきました。わたしたちは自分自身で直し、建て、飾っていく努力を精いっぱいした後でなければ、人の助けを借りようとはしません。わたしたちのフラの学校は、わたしたちの農場であり、家であり、財産なのです。最大の幸福は子供や孫たちからもたらされ、最大の希望はイエス・キリストの福音からもたらされます。主は絶えずわたしたちを祝福してくださり、わたしたちはその光に照らされ、主に仕える中で最も幸福な時を過ごしてきました。

ハワードとわたしは、それぞれの祖父母が癒され、教会に入るといふ奇跡を起こしてくれた宣教師たちに感謝しています。わたしたちは祝福されて天父の幼子として教えを受け、主がわたしたちを愛しておられること、またわたしたちはほんとうに主の霊の子孫であることを学んできました。天父がすべての子供たちのために用意してくださった計画について知っていることにも感謝しています。多くの日本人女性に会ってフラを教え、彼女たちの謙遜さと親切に心打たれました。また、日本の聖徒たちにわたしの証を伝え、わたしにとって最も大切な事柄、すなわち神は生きておられ、イエス・キリストはまさにわたしたちを贖うために遣わされたメシヤであられることを知っていること分かち合えたことにも感謝しています。(オラナ・アイ)

賜物と生け花

メッセージ

神様のところへ帰れるように
道を備え
神様のところへ帰れるように
福音を学びましょう
祈りを込めて証を育て
ともに歩むとき
手と手を取り合い
あなたのもとで
永遠の家族になる
どうかわたしたちを助け、導いて
どうかわたしたちを支え、励まして
愛し合いましょ
助け合いましょ
それが神様のメッセージ
祈りの心で
義しい心で
それが神様のメッセージ



「メッセージ」の楽譜
作詞・作曲/石田 愛・康之
編詞/渋谷 絵里

我 孫子ステーキ松戸ワードと野田支部の会員たちは、かつて同じワードに集った石田 愛姉妹と弟の康之兄弟によって作詞・作曲された歌を愛唱しています。「この歌はわたしたちから主へのメッセージでもあります」と野田支部の武井支部長は語ります。

歌が完成し、皆で練習するうちに松戸ワードは野田支部と分割されましたが、ともに歌った兄弟姉妹がはぐくん愛を込めて、この歌は長く歌い継が



石田康之兄弟・石田 愛姉妹

れていくことで
よう。(編集室)

真っ白な五線紙とピアノに向かって何日も悩んだ末、わたしは弟に協力を求めました。彼は、すばらしいタレントを持っていたからです。弟と二人で考え始めるといういろんなビジョンが見えてきました。子供から大人まで みんなが曲を愛してくれて、みんなが歌える歌にしようと考えました。まずわたしたちは聖典や『聖徒の道』を開いてテーマとなるような聖句を探しました。ふと「大管長会メッセージ」のページを開くとそこには、神様がわたしたちに何を伝えたいと思っていらっしゃるのか、そしてわたしたちがどのように歩めば再び

神様のみもとに帰れるのか、が書かれていました。わたしたちはこの記事をベースに作詞していこうと思いました。それにちなんで題名を、(主からの、また主への)「メッセージ」と決めました。神様を愛し、そして隣人を愛するというマタイによる福音書第22章37節から40節にあるいちばん大切な戒めを歌詞に含め、全体的に、子供の標準に合わせて作っていきました。そのようにして、とても純粹できれいな詞を作ることができました。この歌を作るとき、豊かな神様の愛と御霊をわたしと弟が確かに感じたことを証します。(いしだ・あい)

岐阜ワードでは、ある姉妹のインスピレーションに端を発したリース作りのホームメイキングが、若木が枝を広げるようにやがて初等協会、青少年、神権者にまで及ぶワードを挙げての大きなプログラムに発展しました。材料のドライフラワー作りのため、種をまき花を育てることから始まり1年をかけてじっくり準備された活動のもたらした実は、兄弟姉妹の一致、絶好の伝道の機会などとても大きなものでした。

ホームメイキングのアイデアをヒント

大きな実りをもたらしたリース作りプログラム

……名古屋西ステーキ岐阜ワード……

主は器を広げてくださいました

木製のオーナメント200個、ドライフラワー150束、松ぼっくり・段ボール箱に3箱、わらのリース100個、ドライコーン100本、ほかにワイヤーを通したどんぐり、はんの実、つばきの実、ふ

じやあけびのつる、もみの枝、杉の枝、ラフィア、リボン、赤実、鈴など150人分。これは、クリスマスリース作りのために教員が1年をかけて準備した材料です。これだけの材料を用意することは、数年にわたる積み重ねと主の導きなしではできなかったことです。



事の起こりは今井照子姉妹が始めた、クリスマスに家庭訪問で手作りのリースをプレゼントするという活動でした。皆の好評のうちに続けられていた3年目のこと、林でつるを剪定しリースのキットを編んでいた今井姉妹は、女性らしいロマンチックな飾り物としてのリースが象徴する意味に気づいて衝撃を受けました。それはキリストの荊の冠です。救い主の犠牲を象徴するリースを通して、主の名を一人でも多くの方に知っていただきたいとの願いを込めた活動は、扶助協会からやがてワード全体で取り組む伝道プログラムへと発展しました。「このプログラムのいちばんのメリットは、友人を教会にとても誘いやすいことです」と後藤監督は語ります。

「今年もやりましょう」とワードで取り組み始めて3年目、1997年1月に後藤監督がおっしゃったので、今井姉妹とわたしは「またわたしたちにやらせてもらえますか」と、実行委員に立候補しました。それ

用意された材料で思い思いにリース作りを楽しむ参加者。岐阜ワードで1997年12月に開かれたリース作りプログラムは100人以上の一般来場者でにぎわった。

までの3、4か月だけの準備ではなく、1年かけて準備したかったからです。すでに1月には担当者が決められ、昨年までのように数人の実行委員だけで進めるのではなく、もっと多くの教会員の手によって準備されることになりました。

春、ドライフラワー用の花が担当の姉妹によって育てられました。初等協会の子供たちは活動でとうもろこしの種をまきました。扶助協会では会長会の計らいで、ホームメイキングにオーナメント作りなどを取り入れていただきました。また若い女性や初等協会の子供たちもオーナメントの木にサンドペーパーをかけたり、下塗りをしてりました。

木の実拾いはワードの組織で競争して集めました。これは担当の姉妹のアイデアです。おかげでたくさん集まりました。はんの実も近くで見つかりました。松ぼっくりやはんの実の一部は金色にスプレーされたり白色に化粧されたりしました。どんぐりにはワイヤーが通され使いやすくなりました。

つるは毎年兄弟たちの担当です。最初の2年は近くの高校のふじ棚のつるを剪定がてら頂いて来ました。ところがこの年、そのつるはすでに剪定を済まされており、朝早く出かけていった兄弟たちは当てが外れ

ました。仕方なく兄弟たちは川べりに行って野生のつるを探すことになったのです。そのおかげで前の年以上のつるを集めることができました。もしもそのことがなければ、わたしたちは必要な量のつるを用意できなかったかもしれません。また11月には奉仕会が開かれ、近所の農家で頂いたわらを使って100個のわらのリースが用意されました。こうして150人分の材料は用意されました。

わたしたちの目標は伝道でした。前年は60人の参加者があったので、今回は100人が目標でした。前日の夜わたしは、材料は用意できたもののそれだけの人が来てくださるか少し心配になりました。しかしそんな心配をよそに、当日は教会員を除いて101人の参加者がありました。スタッフは来場者に材料を配り、リース作りを教える役目に徹しました。帰り道、車の中で主人と、「わたしたちがそれだけの器を用意できれば神様はそこに人を送ってくださるんだね」と話し、感謝の気持ちでいっぱいでした。ワードの兄弟姉妹が一致して成し遂げた成果でした。このリース作りを通してわたしは、困難があるときそこに神様の導きと用意もあることを身をもって感じました。そして主はわたしたちの器を広げてくださいました。(レポーター：向 昌子)

……わたしの証……



信じる者にはしるしが伴う 炎に包まれた娘から生じた奇跡

福知山地方部相生支部
山下真澄

の教会に改宗してはや12年の月日が過ぎようとしています。ほかのキリスト教会に約10年集っていました。牧師さんの強い反対を押し切った改宗でした。

ある方が以前こう言われました。「牧師も神父も人は皆、間違いを犯す。大切なことは神様に尋ねなさい……。」宣教師と最初に出会ったのは、この言葉を心に留め、少年ジョセフ・スミスのように真実な神様の羊の群はどこかと熱心に祈り求めていたときでした。

「あなたの教会には神権がありますか」

との彼らの問いに、質問攻めにしようとしていたわたしは何も言うことができずしてました。その後『モルモン書』を読み通し、『回復された真理』を読んだときには、心の奥深いところから熱い涙が幾度となく流れ落ちました。

不安も幾分かありましたが、バプテスマ会の行われる部屋に入ったとき、なぜか涙が止めどなくあふれてきました。その後行われた確認の儀式で、わたしのことをよく知らないはずの神権者が授けた祝福の言葉は、当時のわたしの苦しみをよく知るかのようでした。

これこそ真実とつかんだ信仰の道を歩むことは、両親をひどく悲しませ、その後の関係もまったく水と油のようでした。正しいと信じる道に雄々しく生きていけない心の葛藤は、自分の行うことを異常なくらい一つ一つ確認せずにはおれない、強迫神経症という心の病を生み出しました。さらにつらかったことは、当時同居していた実の母にも、まだ改宗していなかった夫にも、体の病と違ってどんなに説明しても理解してもらえなかったことです。毎日毎日、口げんかが絶えず、精神的にも

身体的にもくたくたになり泣きながら祈り眠ってしまう日々でした。

そんなある日の朝、こんな自分の祈りを神様は聞いてくださらないかもしれない思いながらも、当時2歳6か月の倫代と「今日も1日、倫代ちゃんを守ってください」と祈りました。そしてなぜかその後、木綿のブラウスに着替えさせたのです。

倫代は母の部屋へ行きました。しばらくして、これまで聞いたことのない低い母の悲鳴が聞こえてきました。母の部屋の戸を開けるなり目にしたのは、上半身が炎に包まれたわが子の姿でした。わたしがこの世に生を受けてこれほどの恐怖はありませんでした。気も狂わんばかりのわたしを当の倫代は、「おかあさん、おかあさん」と小さな声で呼んでいるばかりです。水で消した後、ぼう然と立ち尽くすわたしに、倫代ははっきりと「おかあさん、だいじょうぶ？」と聞きました。

この言葉を聞いたとき、なぜかわたしのすべての恐れも不安もうそのように消え去りました。病院に運んだときには体温は34.6度、ショック状態にありながらも意識ははっきりしており、痛みのためにまったく泣かなかった倫代に看護婦さんたちは驚いていました。お医者さんには「今日一日が山です。すぐにご主人を呼びなさい」と言われたにもかかわらず、わたしの心は不思議なほど平静でした。必ず主がこの子を守ってくださると思ったのです。

そのとおり、3か月の入院生活を終え無事に退院しました。倫代が奇跡的に助かったのを見て、まったく霊的なことに目を向けなかった主人が「神はほんとうにいるのだろうか」と漏らしはじめました。倫代はわたしがバプテスマを受けたときにおなかにいた子で、特別な守りがあったのではと思ったようです。

倫代の退院後、宣教師を食事に招待したとき、ぜひ主人に福音を伝えたいと申し出られ、レッスンが始まりました。回を重ねるごと、たばこは不思議なほど速やかにやめられました。経済的に苦しかったこともあっていちばん高いハードルは什分の一の戒めでした。

当時、以前から同居していた母との関係が、ことに倫代の入院以来、精いっぱい努力してもどうしてもうまくいきませんでした。何度も断食して苦しい胸の内を主に語り祈りました。築5年のまだ新しい家でしたが、この家を売り、美しい自然の残る田舎に母とわたしたちが別棟となる家を建ててやり直したい、と思いました。経済的事情から主人には反対されましたが、ただ一心に解決を祈り求めました。

また主人に、総収入の什分の一をただ1度でいいからだまされたと思って納めてくれるように頼みました。わたしはその後、主人のためにはっきりとした導きを下さるように、またどんなに経済的に苦しくとも什分の一を納め続けられるようにと熱心に祈り求めました。そしてようやく、「家を売ります」という広告を地元の新報に出したのです。それは主人が初めて什分の一を納めてくれた数日後のことでした。

翌週、いちばんに連絡を下さった方が家を見に来られました。しばらく外から家を眺め、居間に入りソファにもたれるなりほかのどの部屋も見られることなく「この家が気に入った」と言われました。即座に言い値をつけられましたが、それは不動産業者のいちばん高い査定より450万円も高い額だったのです。まさに天の窓が開かれたようでした。

契約成立後に司法書士の方から初めて聞かされましたが、我が家には築後丸5年経つまでは家を売買できないという規約があり、法律的に売買が可能になったのは家を売る話がまとまったまさにその日のことだったのです。主は結局いちばん適切なときに祈りにこたえてくださったのです。最終的に、母は妹夫婦と同居することになり、住む家を至急必要としていた彼らの家と合わせて2軒分の資金ができました。

ところがわたしたちが決めていた新居の土地が契約の直前にだめになりました。今の家を売る話はもう進んでいきます。後には引けない、予算はぎりぎりしかない、しかし新しい土地は一向に見つかりません。ちょうど主人のバプテスマを目前に控えた時期でした。

「予定どおり家を売ろう」と大きな決断をしました。今、土地が与えられなくても主人がバプテスマを受け御心に添うときに必ず主が用意してくださる、大地はすべて主のものだ、と思いました。

それは非常に霊的なバプテスマ会でした。証に立った主人は「これでわたしの罪は赦されました」と涙声ですばらしく言葉にならないほどでした。この人はよほどのことがないと改宗しないだろうと思っていましたが、わが子のやけどという出来事をきっかけに信仰の道を歩み始めたのです。

主人のバプテスマ会の翌日のことです。有年という主人の故郷にある土地の話が舞い込んできました。10日ほど前、九州に住む持ち主が急に売ってほしいと言ってきたそうです。10日前と言えば主人がバプテスマの面接を終えた日でした。そこが神様から与えられた場所かどうかを知るために断食して現地へ行ってみました。

そこはわたしが願い求めていた条件をすべて満たした良い場所でした。辺りは自然が豊かで、わたしにはまるで天国のようにすばらしい眺めに見えました。わたしたちの心は決まりました。その土地は地元で売りに出す数日前に安く手に入れることができました。この有年はわたしのほんとうのふるさとです。確かに主によって与えられた場所だからです。ここに住んで8年間、決して心穏やかな日々ばかりとは言えませんが、いつも主はわたしの祈りに導きと答えを与えてくださいました。

思えば今だに原因がよく分からない倫代のやけどが癒されたのも奇跡でしたが、しかしもっと大きな奇跡は主人の改宗でした。彼は現在までの約8年間を休まず集い続け、今は支部長としての責任を彼なりに一生懸命果たしています。疑わず一心に、特に断食をもって祈ったとき、それは確かに聞き届けられ、信仰と証が深められてきました。主は確かに生きておられます。「信仰はしるしによっては生じないが、信じる者にはしるしが伴う。……信仰がなければ、だれも神に喜ばれない。」(教義と聖約63:9—11)(やました・ますみ)

専任宣教師

1998年8月(227期生)6人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いとかずのりゆき
糸数 哲幸
名古屋伝道部
沖縄那覇ステーキ
沖縄ワード



おおきたちなつ
大北 千夏
札幌伝道部
奈良地方部
奈良支部



さくらいもと
桜井 基樹
名古屋伝道部
町田ステーキ
横浜ワード



さとうゆきこ
佐藤 由紀子
福岡伝道部
大阪堺ステーキ
堺ワード



ながたいつこ
永田 いつ子
福岡伝道部
神戸ステーキ
明石ワード



みやかわみと
宮川 美都
岡山伝道部
東京西ステーキ
高尾ワード

ブックセンターだより



家族——世界への宣言 ポスター
カタログ番号35538 300
11×17インチ(279×431mm) 定価30円
●改訂版

本誌にも掲載された「家族——世界への宣言」のポスター。一部翻訳改訂版。右に紹介した木製フレーム(大)に入れて掲示できます。

木製フレーム(大)

チェリー材 カタログ番号80618
「井戸辺のリベカ」の絵入り
オーク材 カタログ番号80617
「キリストと世界の子どもたち」の絵入り
403×565mm(外寸)
定価2,500円 ●新製品

11×17インチの各種教会絵画ポスター(別売)が入れ替え可能な木製フレーム。絵と額をつや消しプラスチック板との間にマット(黒・白2色)が付いています。縦でも横でも使用できます。プレゼントに好適。



末日聖徒イエス・キリスト教会国際機関誌

聖徒の道

1999年予約購読キャンペーン実施中!

詳しくは各ワード/支部の「聖徒の道」担当者へお尋ねください。

役員の変動

1998年8月1日から9月7日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 三重地方部津支部
支部長: 大谷昌史
- 日本東京南ステーキ
第一副会長: Iwaasa, David Brian
第二副会長: Daniels, Lee A
- 日本富山地方部
第一副部長: 新田元一
第二副部長: 松井 茂
- 神戸ステーキ姫路第1ワード
監督: 川上博重
- 神戸ステーキ姫路第2ワード
監督: 長澤俊樹
- 日本御坊地方部
地方部長: 本田裕二
- 御坊地方部田辺支部
支部長: WEIR, Ted Lamont
- 宇都宮地方部那須支部
支部長: 奈良正敏
- 奈良地方部大和郡山支部
支部長: 武村三千男
- 日本広島ステーキ
ステーキ会長: 桐林 潤
第一副会長: 近藤成吉
第二副会長: 林 徹

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所・電話番号・ファックス番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、できれば写真(投稿者または投稿内容に関連するもの)を同封のうえお送りください。採用された原稿は編集の際、要約や手直しをさせていただくことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介いたします。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、MTC入所予定月を明記)

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

